

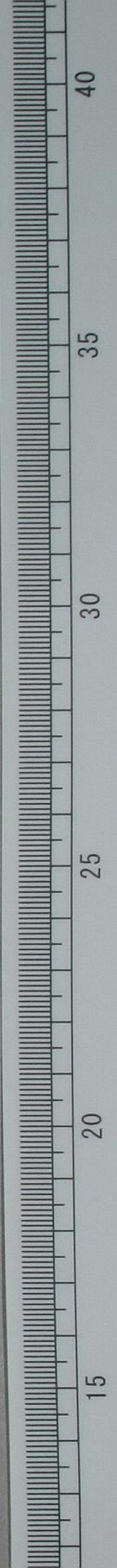
扶桑國
第一產

養蠶秘錄

中



原田織維文庫
文庫4
659
2



庫4
659
2



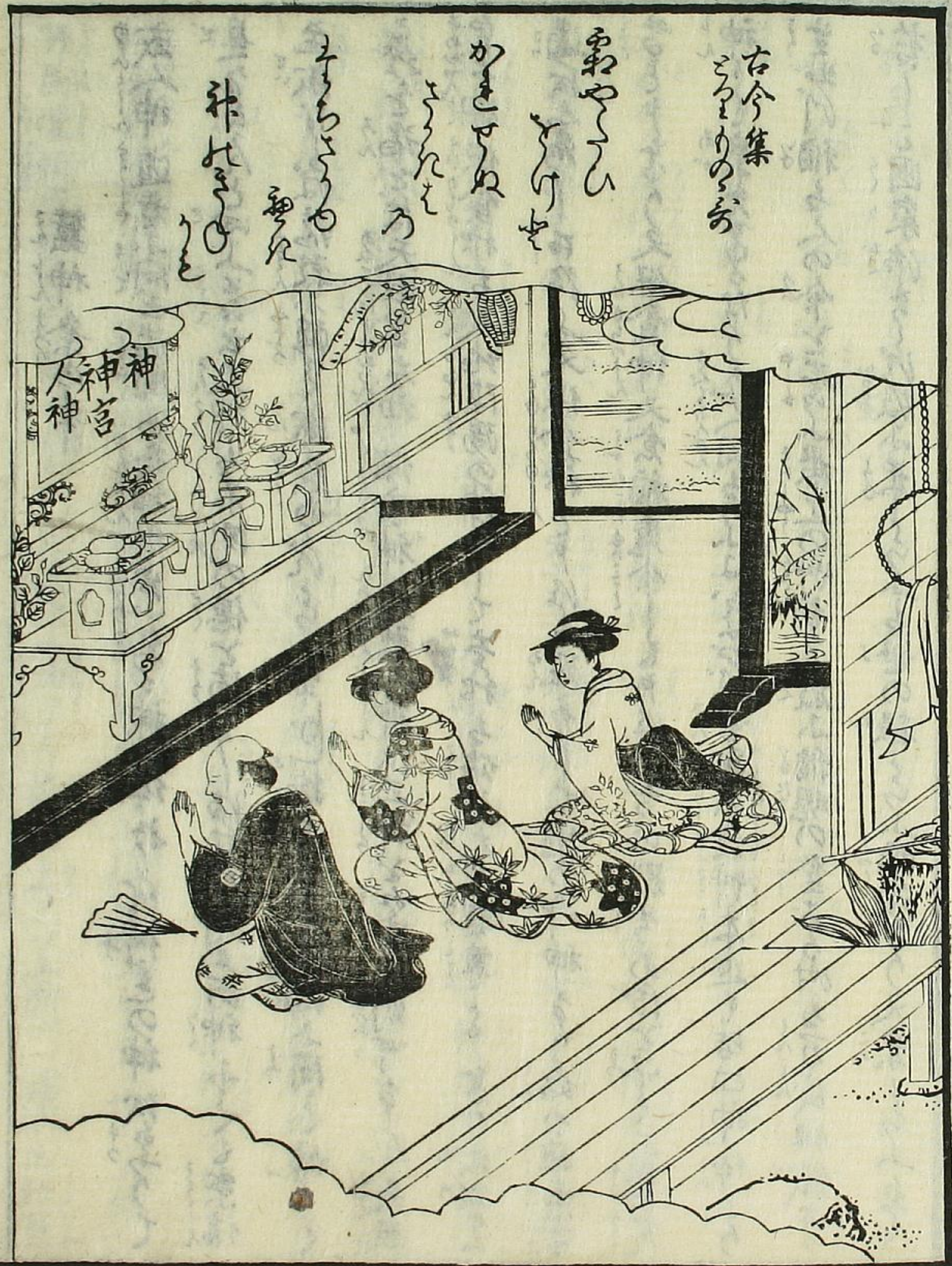
養蠶秘録中巻

目録

- 蚕神系此章
- 蚕生終出分時公侍の章
- 最初椹と公蚕掃落を仕方此章
- 桑の芽芽と公蚕掃落を仕方此章
- 蚕小大小出来ざる公侍の章
- 公侍遠小く年々蚕不化なる章
- 蚕椰子此居起子入との章
- 蚕架立根並蚕風と嫌の章
- 家内陽氣加減の章

原田維文庫

昭和三十年十月二十九日
第一商学館より移管



古今集
ころりのお

あやこい

よけ

かきとね

うた

まらら

あ

おれ

鷹の辰起子入はれ幸
 弘は辰起子入はの幸
 雲氣成凌ぶ一例の幸
 霖雨と志はぶ一例の幸
 暑氣を凌ぐ一例の幸
 庭乃辰起子入はの幸
 法園ふて蘭他らに不有の幸
 縁取根は傳は幸
 春の若魚并病見根の幸

養中目

蠶神祭の事

或人神道者小同云哉國小蚕神也宗祭る神一俣形は何是の神故ありて
是をらんと仰ふ言云夫神と不測の徳を後まへはせは何是の神やとも宗信
至誠なりば形不随く感應ありてと申すは法と之とも今同く始々
此を瑞をば天照皇を神 保食神 天照人神は三神とありて則可有ん天照
皇を神保食神と天地陰陽の神ありてを神と始先大日靈尊ともなり天上
道成志為一石移ふ又保食神とやは陰陽ありて地の神神あり始々種産靈
言とやなり又保食神又倉稲魂命ともやはは三の別号ありて必く三寶荒
神とも宗祭るなり九人同くはまはる倉敷虫魚竹本道も皆は神俣より
生出づ稻と人の命と善く最上の物なり故小稻魂の登るる時と万民銀紙子
若くは國家治まれば故小糸とらふと世の根とらふ稻魂あり又糸とらふと

養中を

物とのまより寶とらふと因とらふと列之神代小神田瓜耕一苗代小稲穂の芽
と物と養とせ生ふ時種産靈神主の移ふ又苗代小神田小植松育ふ時保食神
主の移ふ秋小節り既小熟ふ時倉稲魂神主の移ふ又稲産大の神とも宗祭る
三義あり苗代小稲の生む時と稲生大の神と号し既小登る時稲産大の神と
中は炊き熟する時と飯成大の神と宗祭る時皆同俣是名ありて時と主とせ申す所
の神徳よりて妙難する五穀とらふと善蚕の道成教ありて邪風消除起伏
祭昌瓜守とせ移ふ神神と移ふ善蚕大の神と宗祭る時又善蚕小
午日と吉日とん午の時小まなく日中陽の満ふ時刻あり時又稲産大の神故ありと
け月とぬくまをを蚕業に吉日とせよるに宜あり又天照人の神と天神の勅とらけ
保食神の俣あり又穀の種蚕の菌とらけを神小持け申すなり世々小傳人
万民凍餓の患の多く身と安んぶるはは神の功なり故による所の三神の神神恩

と深く慮り作らざるをいふなり

旧事本記云

甲子日家内と深先成雲の方小蚕神となり素の枝と武牛之素の糸に
繭餅とのせ供へ繭の形小蚕の神神酒と献て此れ國子なり祭るなり

史天官書云

正月上申日東方より風吹けむ其年蚕より豊なり

續齊諧記云

唐古小張成より小武里の婦人家に東南小蚕室なるを見く教て云

正月十五日白粥を供へ蚕神と奠ふは蚕の繁榮常に百倍をせしと

婦人教のむくすふをて利とせり

崔寔云

三月清めの節小家内を掃除し結浄り四方の疋と寒を窓と張り

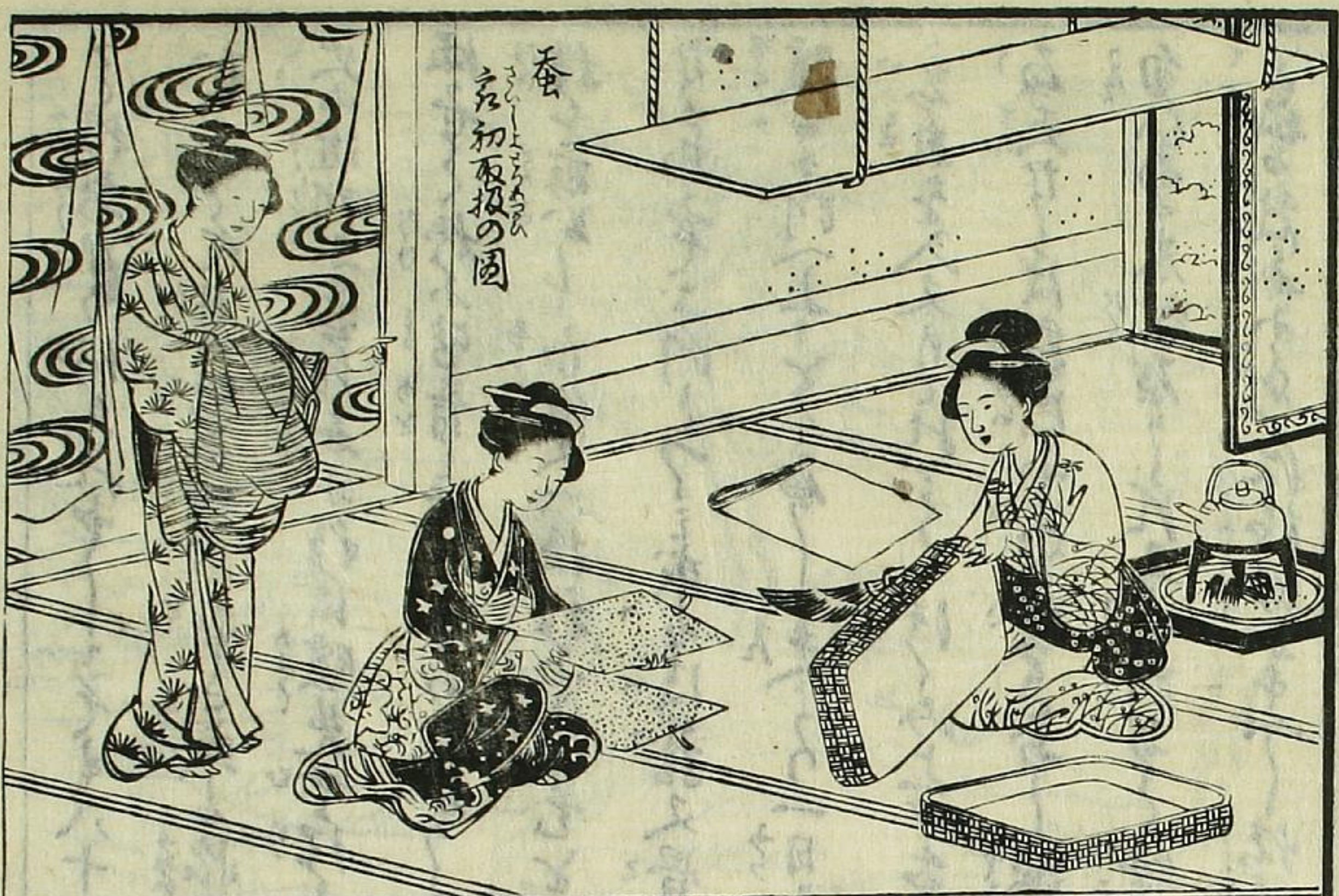
蚕小用の内法道具と云ふ用をなすなり

竜魚河圖云

蚕の沙汰家の成雲の方小埋れむ其家の蚕必繁昌はと云り

東方朔占書云

正月元日風吹け天氣晴なりは是年蚕より豊なり



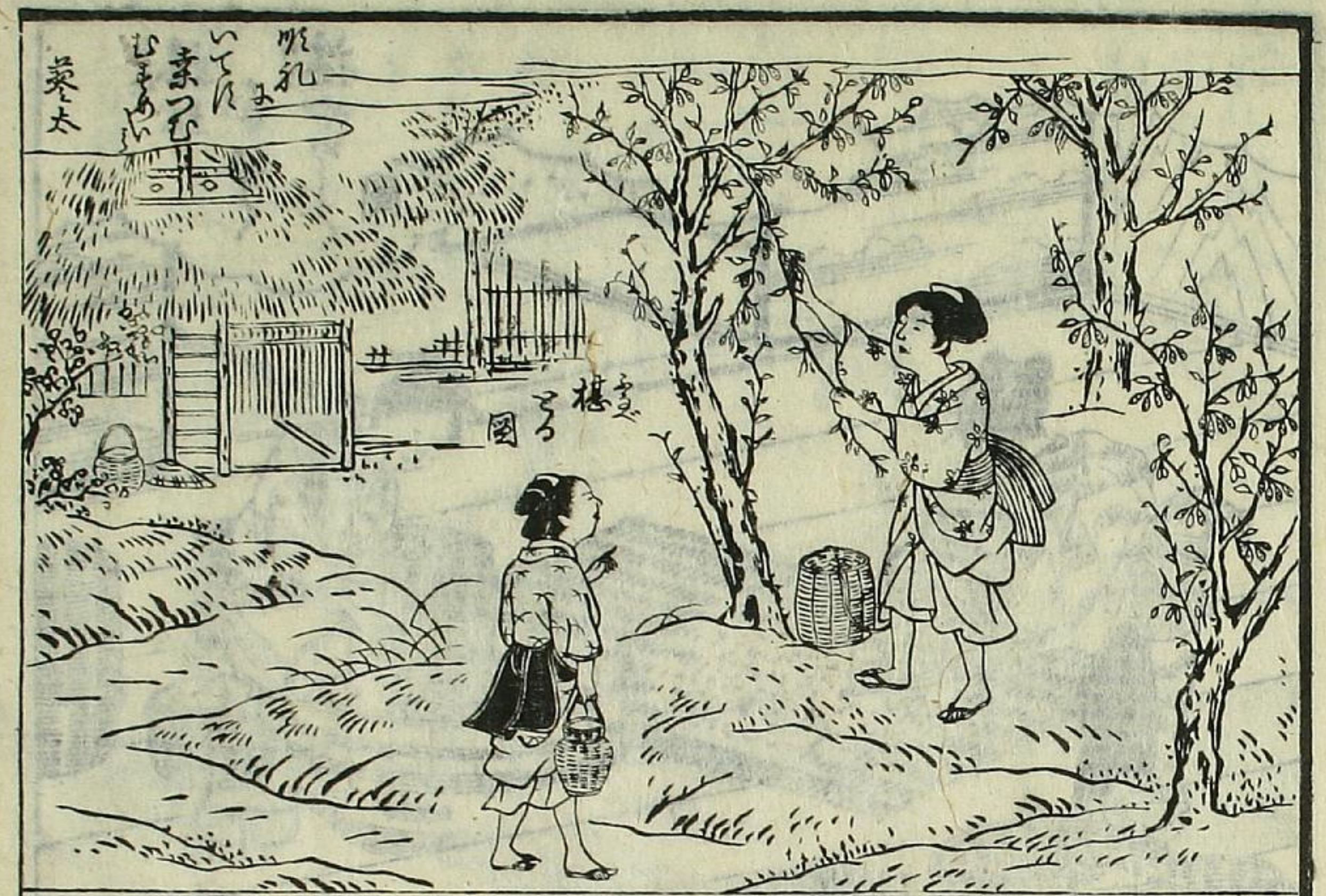
蚕
初夜振の圖

蚕生れ物る時公海の事

春小蚕の生年先物小せんと思ふ
物を彼家中日前後小取物一氣中
物ぬ振ふて氣通ぬる所へ約
束へ一是も其去地の寒暖は速
の加減あり一物此上下へ糸とほま
一日替り小上下や約替へ其外は
二階裏などい上下わづなれども温冷
の遠ひあり種の上ふりたる所は
まじと蚕早く物なり免角一箱小
蚕も一度小つれと物存小加減さ

ことゆきなり何せれ中一あても八十八歳前後は養生れ物なりけり
 おそれとて日の照ふ所小暑さ或る懐中小入又と夜名蒲團小清みあるひ
 史の近所小虫れ意小程暖先せ理小虫さんとすその意一玉性自然小
 後冬く極小皆青を法さ蚕少くあうらば夏の九月月此暖なる附を見合を
 指を取ら一白紙又六枚程少く是をけみ又その上を抽出給中此種う
 かる物あてさのつと或る皮籠又骨柳けだ松の物小入少一火氣のひ
 暖する所へ上とく登一まうり一日小式を後づつみ一程候より唐け
 衣氣を入又りこれごとくけみ上と登一は時衣氣又觸りて熱一あ
 返天けは家内小火と煙さか一湯ふまぐ一薪と松葉の類より一魚
 匂ひある木焼たぐは又近所ゆく煙草香びうは紙粉少くも魚一蚕を
 手掛り度毎ふも洗清浄ふまぐ一法道具と蚕物最掃除して煙玉一

養蚕中ノ三



初楳と以て蚕揚落仕法の中
 蚕の初めより桑葉をのりて書ふもの
 柳れも去蚕物の附長を固めて未
 葉の芽出る年あり其附を授かく
 桑此花を取蚕小舎と所あり元来
 楳といふ桑の交少く種小なるより
 蚕の食むる桑の何と花とまぐ一
 初蚕揚落仕法と附子と洗ひ波葉を
 のおぼなく乾燥さたるを子にて採おし
 卵一是と能降し又糞まてごみを
 去り種を授の蚕小楳といふ牛用を



美 蚕 糸 七深
 落し園
 蚕種紙のま端は園紙でなく小
 式人布くお紙のうらうら細き
 若をとりてまけふほこくせ
 だゝと意の中へ蚕紙おとすと
 或と豆時計小をま出と掃落
 さい其日の夕方小式ま出と掃
 落し 如目小生れ 蚕紙型
 目小持耐て掃耐と其蚕何やと
 子煉をほく 集めつゝも庭の
 起より変物や電より免角蚕
 と其日切小掃れてまふべし



根 採 採り 採り 採り 採り
 まぐ 根を救の蚕守方も物
 と見へ採る根三合程用と
 生れ 蚕多ふ小見念志の棲と
 ろて用さまぐ 一と初の際
 ととき先也方目ぐひとりらも
 解の園と根を九付小被
 包し蚕と取出一何の意とて
 も庭小早摘のまりぬとを住
 移小見念せつて其よ小紙と差
 被採し根又の切糸とても意と
 庭小掃り垂其う小生れうふ

養蚕中ノ四

又蚕成羽中くもけい出の蚕少く痛む一其公は少く種紙小
取はさす所蚕も陸分たけり羽そ慈一掃入を素紙加減能ゆりけ
緩くせ八方一廣も為くま一は時種を夜の蚕凡三尺に方けい小
むられ松小為くま一慈を何あても救多小れ多蚕を蚕すは合ぬ
松小変一初日想なれば一日小式三皮種喰せ素紙切棄るは一日小に
み皮喰ま一是も時多めく少一此加減あ一ま一り少一暖なふ
所一上テ重盤一松の立所も二テ所種小立重冷一は日と暖る亦小立
温氣冷三日と少一冷一と亦立重れかひをるなく加減ま一素の
みあ一付も亦くあを喰ま一素紙を蚕小見合せ後種目のゆ
さと用也種團くもく色々の仕法あり各其宜一は小作一ま一り
一日小式皮一先の神も築少く蚕下と切廣く一是獅子前も入也の

松紙半はく蚕の居くと乾一かびあまざるため此は法あり毎日素と
あふふ糸は葉とりて蚕の原も亦と為さう之破り重其後素と切
るは松小ゆりけ喰ま一は毎天繕と蚕下ああり育れば蚕のう小
あれすりぬ衣少一完むくとうりけ蚕て重小素紙喰ま一是も
蚕下と燥さんた先より蚕少く四五日の間を暖の加減別して大切なり是より
七八日の所子入あれを後小色く此病と亦能く大切まきさなり又幼羽の時
小風来れを一向素紙喰ま又と蚕消死ま一は治者一又暖まも悪一
兼て八方一風ゆき此定紙松紙は付戸の扉も自由小一付く雲の如くいとん
加減まも半才一大方いも入也のお病せうりも一と蚕小病出来性細く
り之一ま一はあは後小ゆり織小悪一くかり一松小ゆり少くさう
人多一及の不他と糸小ありとを治一湯氣加減も家くもく遠いあ

竹を考へて敷き多く立座敷に作り大切に取扱ふなり――柳本抄竹と
生髪と懸し前方より掃く乾し懸し――

桑の若芽とて之のく蚕掃落を仕法の手

年小よりて桑芽おるうら小蚕おすある取扱はり桑の花と食をせ
しども桑の葉有れば早く桑と食をべし桑葉とあそし蚕と一足
生立る中し又掃く久しく書いし蚕とあし桑とて赤くして性悪く
生立る中し――初と桑の筋取御小割とて歩は方面位の御用え
るふ以前のてく種まぬの蚕小桑葉の切粉は六合程用えし生れらす
蚕れし小能行不見合せらす懸し――物の時を生れたるをさ蚕桑葉
にそのあがねたり是と御せんあくをいふとさみ取前のてく懸し
まらぬとらす其の小紙と皮を小紙へ入るしは時種まぬの蚕と凡

三尺四方位小糸のてくろく懸し散りし懸し――又紙小取付る蚕は是
も前記のてく裏より懸しあの中たけは落さし――足と敷き多くを
懸し蚕とほり懸しそれ合ぬ中し小糸を――蚕の若懸い出く又六日
幼卵小あぶし――桑と食をさす小むら育る糸又い蚕の厚羽は家内陽氣が滅
悪し死ん何れもあし抜けゆゆの育れをたらまら蚕不掃と性悪
くなりし――程陽氣と陰は陽固く遠いあり陰固くおし暖氣と陰
陽固くおし冷しりえ――毎日桑食を桑に御し懸しあく蚕とけいむ
さ極小紙り懸し其の及桑は冷ななり――雨天の日いそのれ雨く上りあそ
雨湿と深く――取蚕おく二日目より日けりて前記のてく一日小
式と夜し御し懸し桑とて蚕下と切蚕の桑と所と落れあへらすり
むららぬ極小して専ら小紙り――蚕生れくは又日め小いあし懸しあく

蚕下とも小蚕成をうひ取能燻なる外の罍小まらぬをうり其う入小
 紙を敷蚕を并へ並列のどしして六七日書は蚕お白多ふもせてこの
 ○は時日傳阿り前年の秋早稲のまらぬりと蚕種を敷小凡そ六儀宛小用
 若く蚕生傳り前彼まらぬりとわくうすあくるなり小種を是と粉為際
 ぼくまらう下へりたる所を又まらぬのうまらうとて一埃と去ま申小なり
 一雨を取並成とぬるれ蓋茶小蚕の居尻取入んと思りてお日の夜業
 舎を茶と彼らぬるるすりぬりと蚕れうふまらうとせむうけ能福小
 為くゆりうけせ並小葉の切粉成ふりうけ加減能舎まらう一粉れどく
 まら時と蚕ぬりと煙の上へぬあ出葉へ這とふなり但傳り厚くぬりと
 ちれど蚕ぬりれ下ふまらうと居く上へ物ん加減あり又其日の粉葉と舎
 せわしるると並居尻取入も一團のやく罍とわし一似事罍のすまらう



蚕屋子の時
 居尻取り
 くの圖

羽あく蚕とゆらう外たふ
 罍へ入居屋へは尻之の時是と
 罍の中小居らうり一蚕い今夜
 い縁通小並今と縁通小居一
 は夜中魚小並一是と罍乃
 中並縁と縁ならうも名と暖か
 遠ひある故小蚕を一掃小掃んが
 粉粉のどく度を入粉並らうむ
 まらぬりまらひ加減能まらる
 がふふく奇妙の仕方へは尻勢
 の時堪と舎まらうは二夜舎せ

て後居尾を替てより又素糸なりは式度喰て後居より取替てより如終
神子此居記より和の記まで居尾を替り度毎よりすしぬはく度一を以か減
茶のてしはの通あして居替をれを極すく蚕糸を清く洗ひぬす
唯蚕此夏の衣に耐より耐るまでのをさふありせ知る一は時湯を洗ひ
火を少しの焼べし一火を焼加減を蚕小葉ともより又毒も成る
又炭火を雲うは積少を春蚕の煙で燻(夏蚕は風で燻)とてふ葉あり
蜘蛛も火に付あるものほく其心ゆる人必焼燻りて免角湯氣を
煎ふより一常小我身給すく能程ふま一戸の透は紙めてはる
庭一透同の風を陰りて甚多たものなり窓は冥冥中か減ま一
蚕物七七八日より十八日と蚕母と蚕の傍を去れば子入を此子後其家此
向の葉半氣と付てその葉を又氣の物ぬ根ふま一葉一葉で大功也

蚕小大小出来ざるゆゆの事

蚕幼と思ふ此時掃落し種を殺分三人は方の積小せは端の尻と分
了くまはみ見ゆの種をくする幸性悪くなる根えり登り一切の他物と
も厚く極はふと以実入も悪くか一五成人と蚕小持持と与る
かく一日小一皮剥式度種素糸と之は右大方此子入をわく素此より根採
あをむく有て殊異なる蚕の性あり大大小小採ふるる之飼方の口徳と
是中法をりて養育せば中仕換へ有る後より元より蚕の情と備る
靈貴きく尋常の虫より遠く其席と去れば居く素も我前小来れを喰
食らざるそ彼方け方歩と早しく三月の虫小あははは理と考陸
分季と付素此免ひ根おむる根小と一其申小をむげ一は蚕
も有る也又大根取蚕も有る一彼厚飼小する耐と遠若成蚕弱さ

蚕の上小堂と業と冷下小敷れ弱き蚕を素冷の年おこは
おのせして上小敷り一蚕外(切)と宿頭を低く居る上なる蚕半分
素冷冷ひ下小敷り一は冷を上げる蚕割(切)一耐小下なる蚕業
と尋れどもお子上なる蚕冷り一糖と瓜油一葉は皆おれ彼是す
肉耐刻(切)弱き蚕を肌小及ぶなり是不粘性ありかなる振本にて後
六(切)おるべ一玉て大切の秘半なり終くおれなり

○按ぐる小蚕業と人の運小よりて若画ありとの小半おこり一もあ
ども早竟と粘の若愚と烟方の功拙と小あり又年の空り氣候より
豊画の遠ひおれども是も短方よりて勝劣有る一海を料化の道も
日一豊年と運る人も運ありと人も共小上作一又画年小一統小
悪化よりとも其の中小入次第少て冥への多少は別ありおれを

天小や一を福なく人か此若ひある年程然りけ程とあるる人と
根小佛形小形を極ふと粘元と根と隣の間とかなる人と好まから杯
さる人あり佛形と人の形の小よりて加道一は一もせども其身烟方小
殊るならむおのせん幾度も功若の人小尋ね烟方殊異なえをたとい
世間一統画化の年なりともお意の化とまると半おけ

心得遠小く年々蚕不化とる半

或園小て善蚕とまある物とちり其所の地頭より区内の百姓小素と洗るせ
蚕と飼むおれどもは道不案内なれを東園より一書とけく其書小做りて
書蚕を小お打續き七八年も不化一莫老の換失有る一久玉人たお後
労とて必定は土地と蚕小遇さ所土地なり一とやぐそ素の樹とも切拂と
に爰小き人の害ありて其趣を向ふは郷人の云近年地頭より冷せられて蚕

飼ふと云ふも元より不案内の事なれども東國より一書と求め見ると其
書云云むり一園東に或人蚕の飼方をたれり見むと書の以種二枚と目見
出しを扱ふ家此二階温なる所あり飼ひを扱ふが一暖なる納戸あり
飼ひ今を扱ひ養後の冷し一戸あり飼ひ試敷ふ二階の温なる所あり養ひ
一蚕の卵を飼ふ事小生立時の蚕より六日早くなり又納戸にて飼ひ
蚕も種く見事小生立時の蚕より二三日早く成り又養後の冷しと雨と
書ひ一蚕の甚不採むく目殺も先の蚕より七八日も後延何れも何れと
採小見く一が彼二階の温なる所なく書育せし蚕を産の起り病
治さ俄小あかりなり後と一向不採せり又納戸あり育し蚕を不採せ
たり是亦まがれを被治しと書育せり書ひ一蚕の後延何れも何れと
見事小採ひ天晴上飛せり物も蚕の冷しと小増るるのみか一後延何れも

飼ふと云ふれも育し一取教のてと戸と居れ冷し一て書育せし小かひこ
尾子の内小大津消去せ又採し一蚕もも性悪くなりは事始てより以来一蚕
も上飛する事なく過分採失せし一より不採は所を蚕小産せぬ去地中
是ゆれを養子蚕業とお止むべし一と一客聞てり小採小其能と云ぬぬ
かふ採の御事一もむり其冷し一をせり子細あり元來園東筋の蚕
業と勤事半最久し一亦不家居などとも種く小採一窓の扉閉自中ふし一風
出入專湯氣の満る採小造りたてそのよりあり小おひく冷し一と云ぬ飼ひ
中書一物もらん東風とて冷し一と一給事物ももゆり一と云ぬ湯氣
冷し一と云ぬ暖の加減と其家他小育し一物もも冷し一と云ぬれより一と
云ぬ一蚕を養子の中小をささ不堪死するなり強し一蚕の性悪くぬれ
は取らん物て虫の心いさし一温な方好むの事暖まかなむ法中の中氣盛ん

守國
里信小梅素
の秘事
に授ま



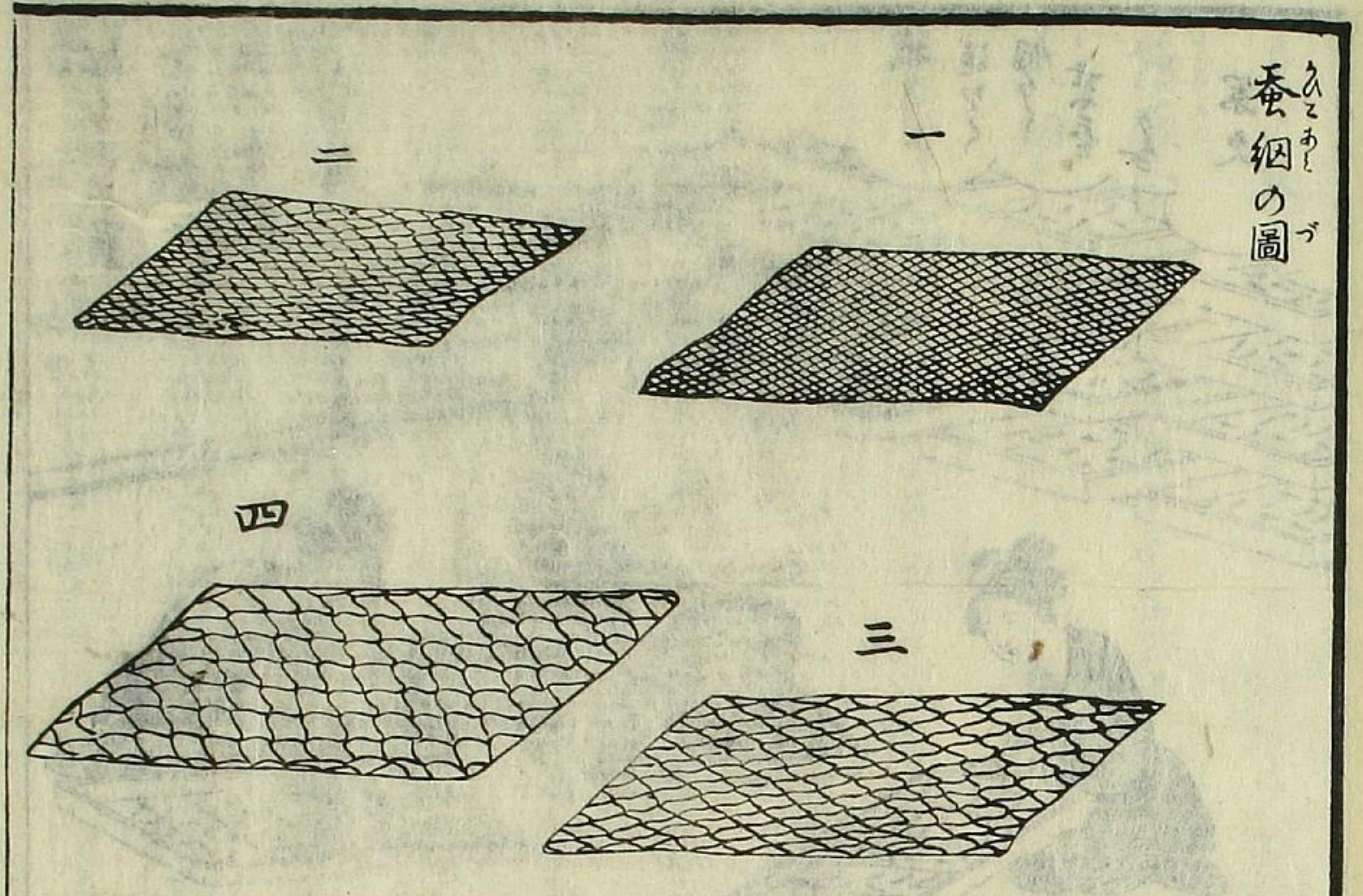
おぼりて飛鳥の蚕も是ふおぼり
 夏小又二つの秘事あり温氣と好む
 せむむくしほめさ氣の熱さ
 玉て魚一只何ふく長栄はく
 幼うしやふは後小陽氣を
 肝要なり聖徳太子の教ありふ
 蚕の父母の赤子とまふくしや
 えり蚕の異國ありて去地の
 差別ありとて結成しふ郷人を
 ばて其教のぞくあせし小果
 其及と年々上代せしとたり

蚕獅子此居起子入きの事

蚕掃まうり七八日め以素と喰止と趣おし白く頭ゆくはる是を獅子此
 居体と云ふ團小よりくは時早く居裏とれ替てありねのり時小居う
 ら替んと思ひぜんたう前日れ衆素喰まふ小前のでく子揃のさりぬれ此細るを
 蚕の上小腐くうり虫小素の切粉とう掛登し結る時と蚕皆上いふ素に
 這上ふかり二夜素と喰せくおれく居裏れ替へは時小素ふうら意の
 縁通小居るる蚕は中ま小虫今通中通小虫と今夜と縁小虫又今ま
 柳上小虫一いと下ま下柳小育うへ上ま虫一は是も柳の上
 小く陽氣加減遠しゆさうのぞく取替くまれば蚕一週小能掛ふなり細
 蚕獅子此体と見あ素と二日小七八夜う掛登しをあはる
 中ち虫ちのぞくさる時蚕素此下小眠し居る素と喰ゆとも是も掃ま

素と冷切らざる内にお貴うひくうり掛くべしは素素不足なり耐と蚕糸掛
 おかえりかへすうらふ先は眠り蚕の上をうら皮と脱物 是と夜と までふ
 夜と眠る素のうら起りよる 是とある素の け起りし蚕足は蚕糸素とより止
 登りけ耐大方運る蚕ありとそは貴素とゆり掛きだはん起よりし蚕
 素喰ふ頃運れ蚕と漸居眠みなると竹葉素と止るお先お起りし蚕は
 夜も素素喰ひ肝心の喰盛の頃おれ蚕のお小食止めおをよおえれお
 痛むべしは夜の起備皆け止め素のる遠ひより蚕小大小葉素とこれ痛ひ
 物るまで大切の事ありけ耐ある園おく蚕網とより物とせりよりけ網の殺
 用用者し蚕の大サ小見合後程目ありと用白け網のきひ方の蚕色
 半眠りし頃蚕の上お細と垂れ素の糸と網の目と濃ぬ程お振あみのうら
 ゆりひ並だりし物のごとくを眠るし蚕よりしよすう居る眠るる

蚕網の圖



若れ蚕と網の目は濃う上なる素に
 たり素と喰うけ耐網の四方と持
 上お何よりし若れ蚕以外の處へそ
 貴うけく素と喰をべし下小ゆりし
 眠蚕とお暖かるとるれお上テ起りよる
 格ふまへし物のごとくする耐とおそれ
 蚕も子れ蚕も一週お能持たるし
 是秘傳又網を丸く素素のこれ
 前には下り眠るし蚕より上へ
 蚕糸素とゆり止先何れおやそその
 蚕のうらお葉素の葉かどは小見合

松ぶしふ葉
と並獅子
眠の蚕搦
白る園

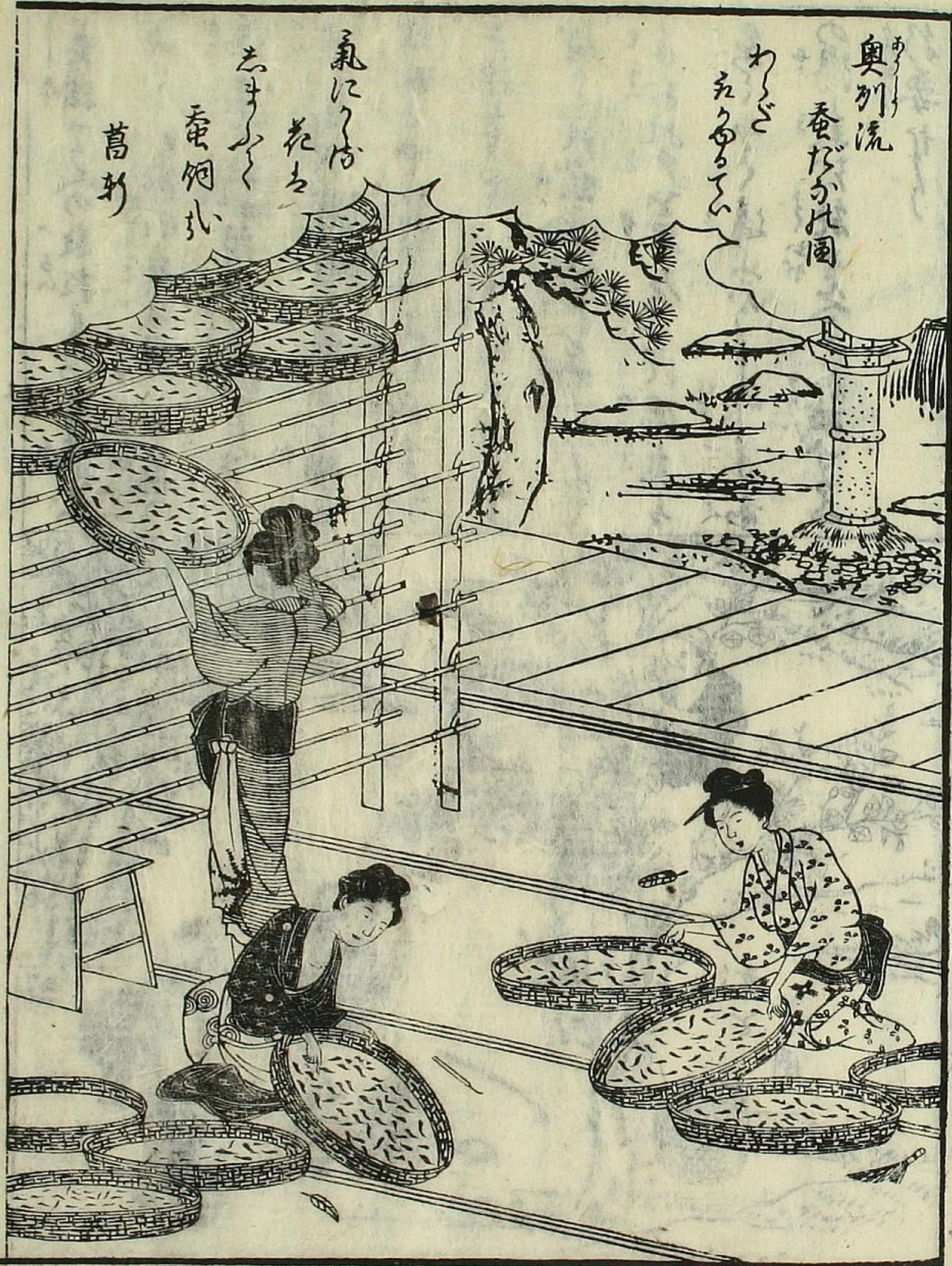


蚕園のゆく是と標に美と蚕を
未眠をゆれ若中拾ひる又眠
蚕のふれ西へあけ並已が修小夜と
眠を起上る迄一独起抄と見
て素と喰まて一又標なく拾ひ
時と虫の敷まきを同治と一と
拾ひて一丸小帯と付垂り
旦夜の居記右よ日ト兔角一振
小柄小帯と付一と初初
獅子は居記一と中園をいたる
眠記是と三の記の居記と右の園と

りて梅雨の夜の眠を季々独抄の取扱のふりるのけ奇妙と一平生を分
層細く糸のよろ一厚細ふと並中かく一と菌も少れとゆえ一はゆふれを
糸細く糸のよろ一と糸目か一は分はふ糸は成させ一蚕のまを
大ありあて糸味を知くま一

蚕柵立柵并蚕風と標の事

蚕柵と園と一と一と此は法あり其園の勝子空爰不法一先葉葉を
ハ破風小大成窓とあけ戸の扉自由ふと一取く小風ぬと此穴をぬ垂て
雲のかさひと見附く戸と一此か減まると半分一なりえより蚕のうれ所を好む
陰中けり戸とあけ蚕の居る柵と園と一とををえより風をう入柵と
まへ一別して幼細の耐板の間と一とまへ一と板の温とあひふ
隣り居るにわびかど出来ぬ事あり庭柵の柵と一と



奥列流

蚕だか此園

わごと

たぐりてい

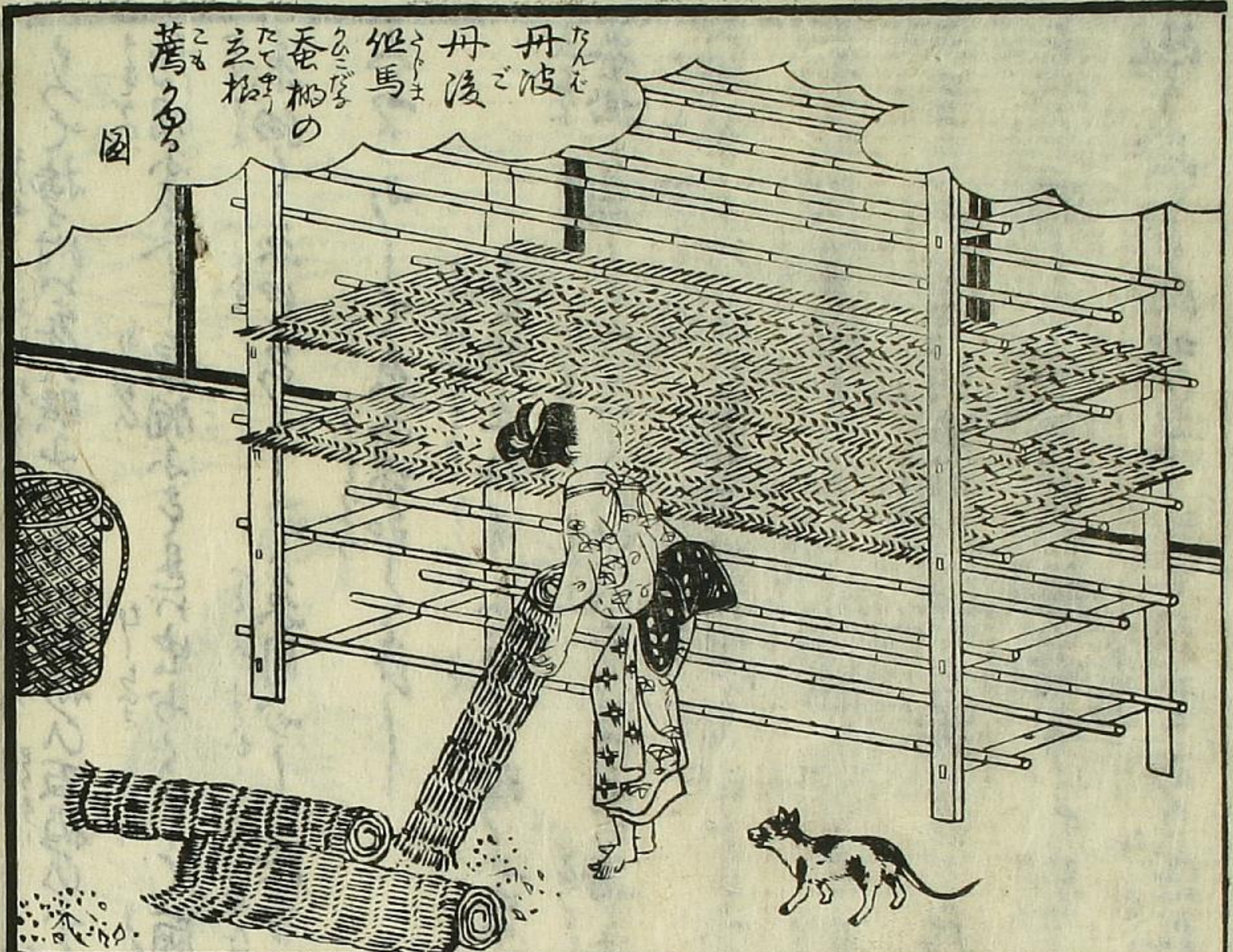
氣にうけ

花々

志ましく

蚕畑か

葛新

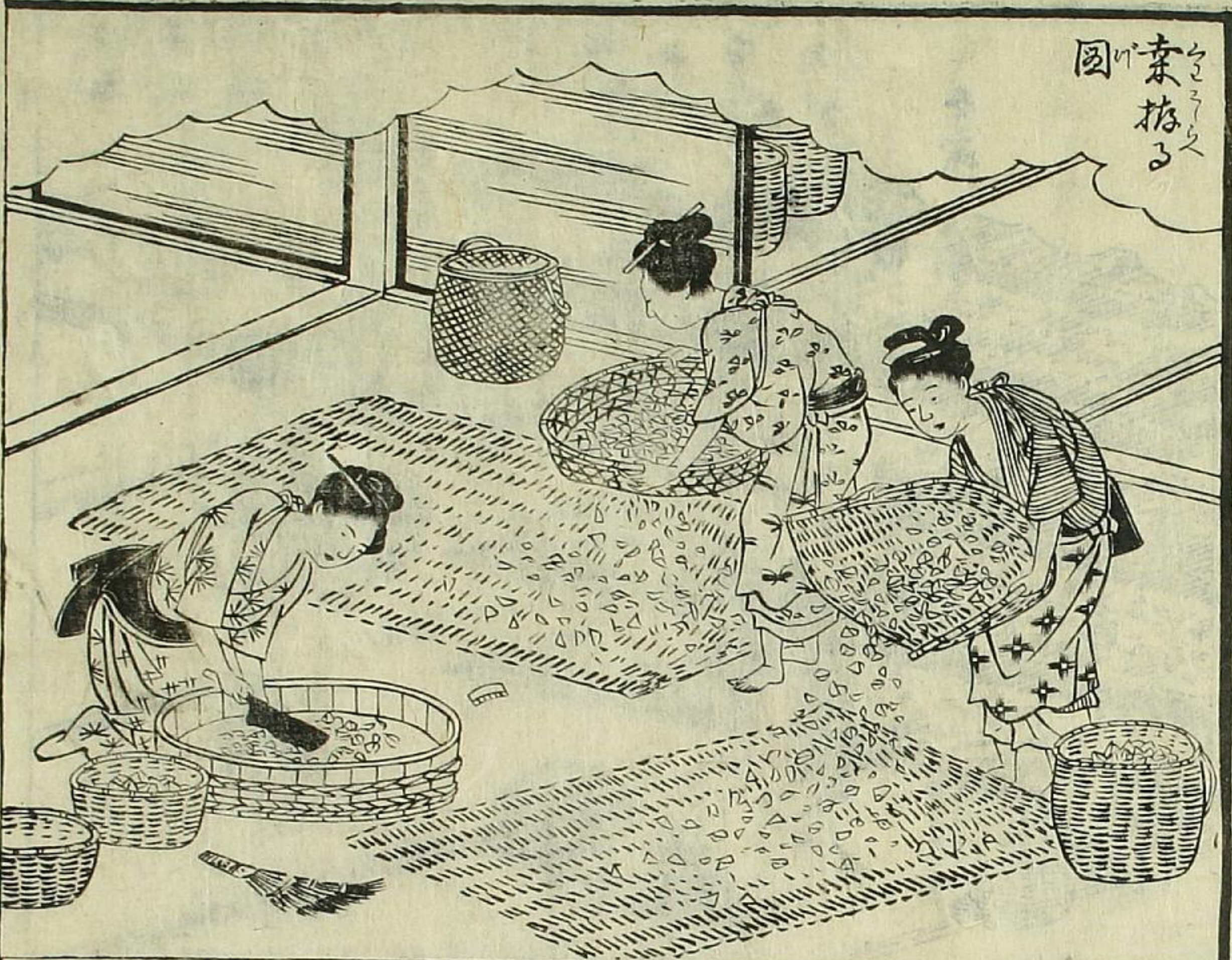


丹波 丹後 但馬 蚕畑の 立板 薦

図

家内湯氣加減の事
 蚕吐るば常ふ我家此順氣と考へ
 我身の耐服給又い果地やてもいれ
 行ふまへ一水風来て冷さとさり
 戸をうとさすべ一南風来て暖さ
 かに方此戸と扉と大暑暑一や
 ちり口方皆扉とさ窓はどめく
 涼しれ風も入る一於て結屋蚕
 物時まのま八十八夜以やくさ山
 ぶお一雪もゆり又蚕製時分
 と六月中のあはまり夏氣ふ

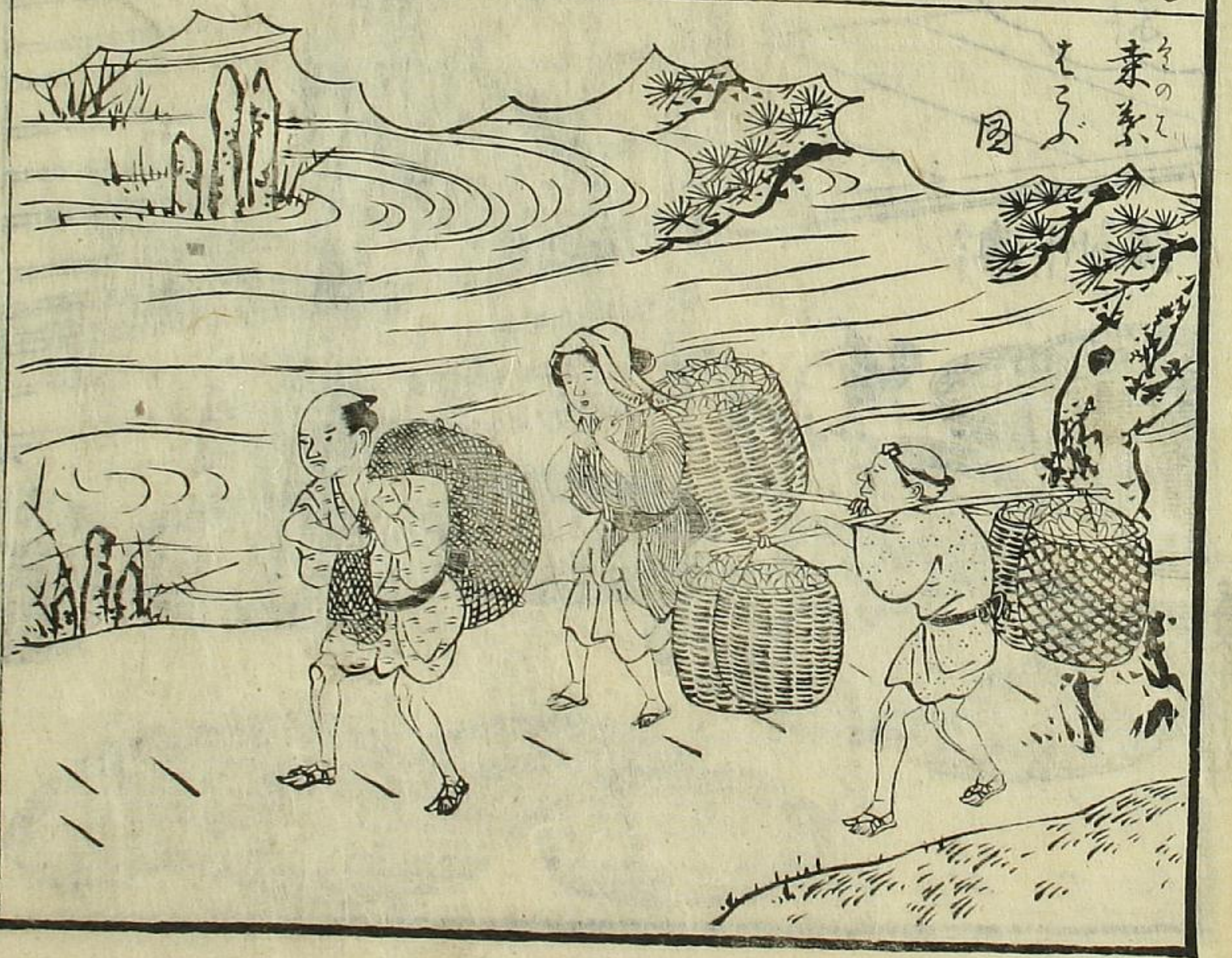
若掛里人の夜寝も一つと遠く
 登一夏の明氣成考へ我家の
 陽幸と能お海え吉音と一
 家此内の寒暖を振ふと陽氣
 成取るやつらり又存ふと
 さ衣を脱ぐと子前の戸とさす
 危うに余ふと戸とぬると見て
 手おれ戸と寝危うに陽氣と
 家くみく遠く登一唯子前
 の湯氣成能首之く加減する
 必要なり



鷹の居起子入此来
 蚕應此居起までと二月毎
 居尻取留へ一桑採へと危丁押
 切の折で蚕小見合せ少一あり
 たりて是を又分回方位の降みく
 ごと一其そ木の敷埃を去
 能程ふしてむらけりうけ喰
 登一雨天中蚕此居うけび
 ほどおあまのつあり其耐ありぬら
 ぬと蚕のうみお一宛とくくと
 ぬりて桑葉と喰とへ一居

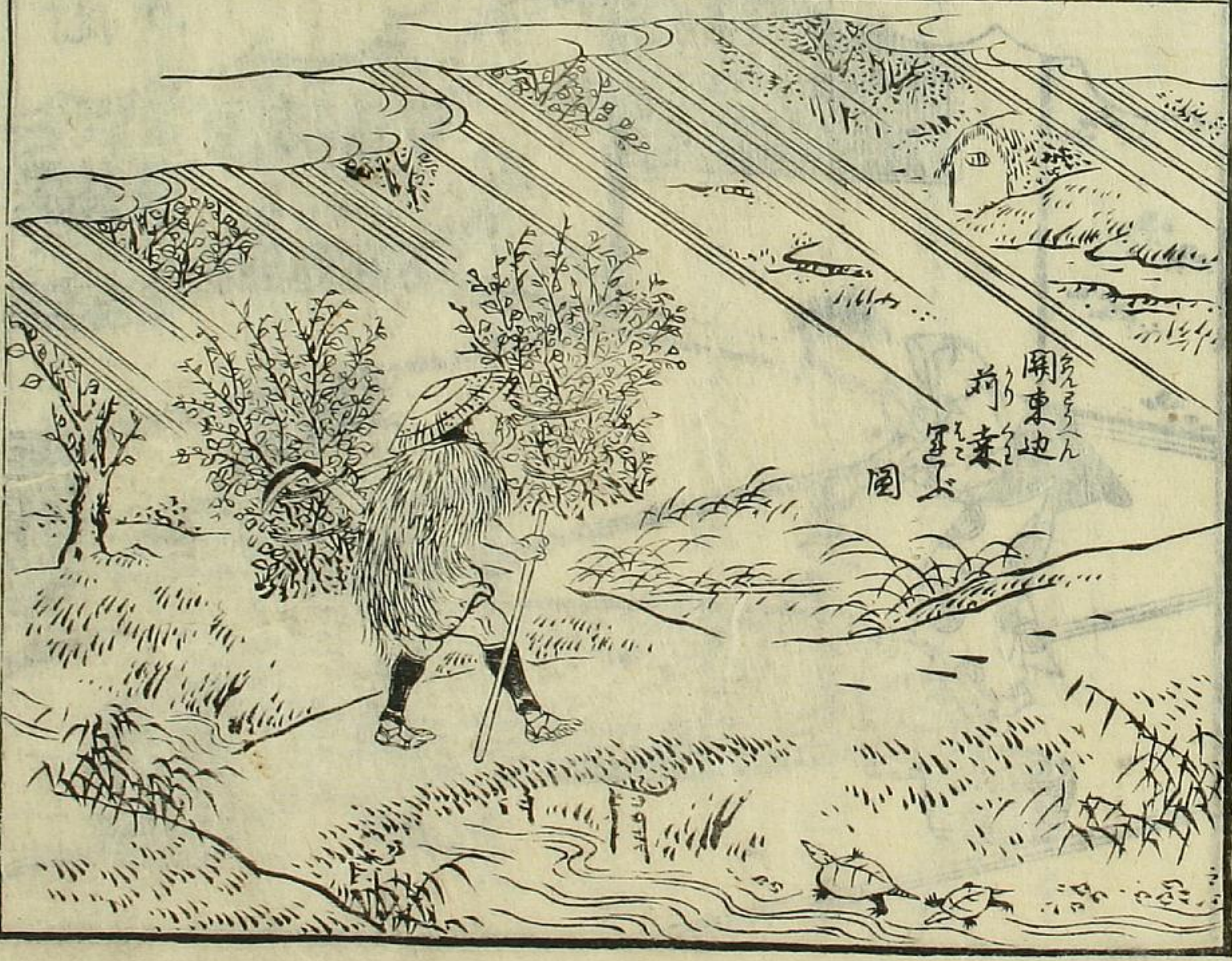
喰ひては時を休め素直の心
 け休め素直の心はかたよあるは
 むれ素直の心はかたよあるは
 食を止りて居る由ふおかり
 味あふしおれ和素の心は
 あると推し喰ひ居るは後れ
 休め素直の心はかたよあるは

奇
 驚体風濕を以
 ありぞけく
 うひとまうけく
 素にむけく

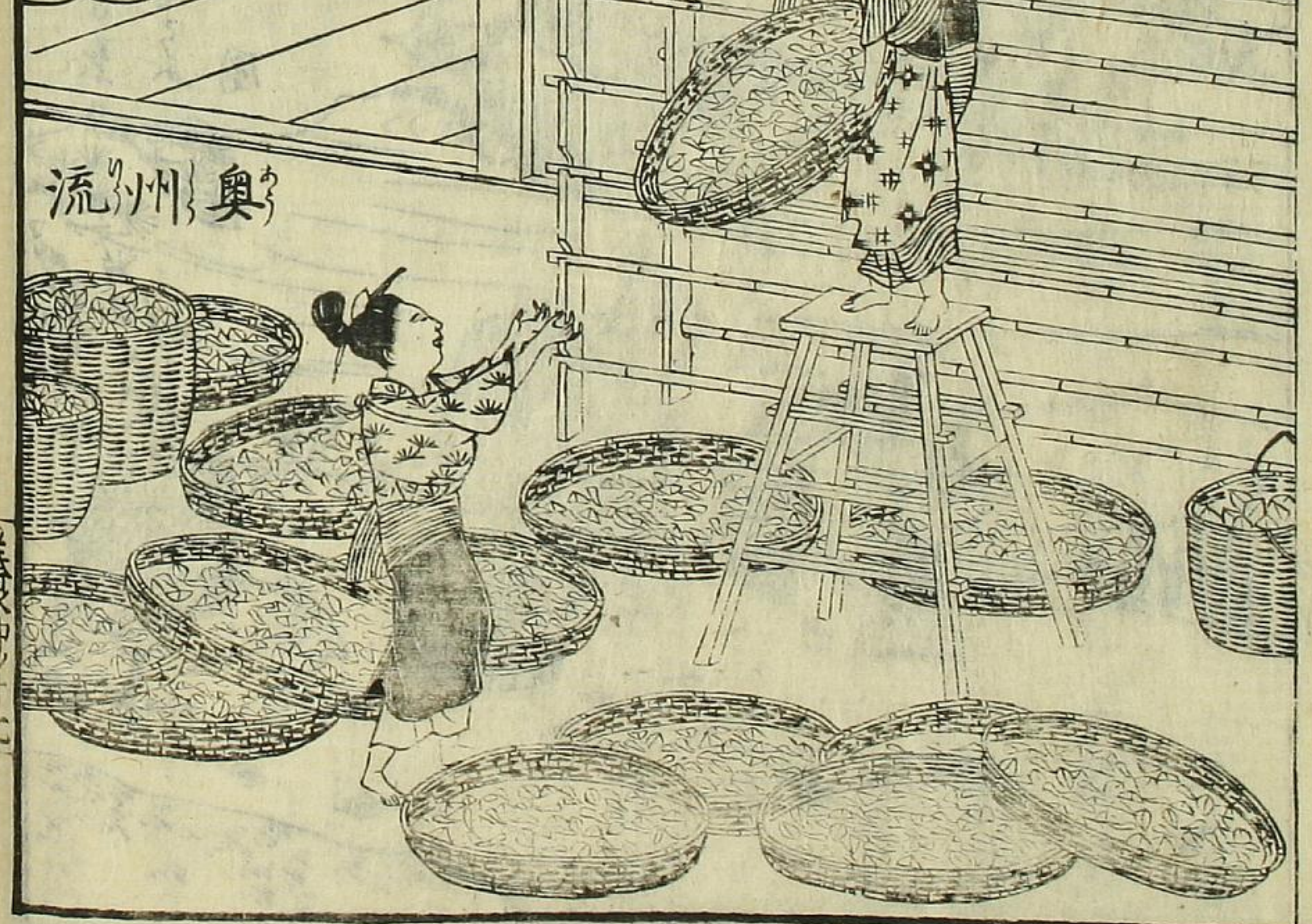


耀して蚕素と能喰ふるは
 の飛起さふと素素の時起る
 うふれ物ば素れと素と振
 止と網を掛蚕爪掛るへ網を
 固と素よのよ素素なごさうふ
 素と素れ蚕と素と拾ひ
 眠るへ蚕と素れ所へ上へお
 起る素よまへへ又拾ひ取
 若と蚕と素と素と拾ひ
 子れ蚕よ退付振よまへへ
 へ蚕と起振よ素と素と

寒氣と後一倒の半
 びりー蚕掃迄の頃より暮暮此片起
 時分を天氣不順しく日毎に風
 急しくおく雪あられなど物りて徒ら
 蚕過中消へ換せしむる其時ある
 國小玉極女足の人育て兼て八
 けりの紙帳と用ゑるし一蚕より
 是成法にて中ふ柳を立敷り厚肉
 の人け中ふ寝て暖みし又かゝり
 炭火など入し是は紙帳と厚く
 あげくおび風を入しやめぬは



糸の起子合半
 二日毎に片尻
 取久蚕落くま
 素を蚕に合せ
 かゝあゝく梅喰ま
 け耐え寒暖の加減次第
 たり手合の沖のまきうは素素
 物り素お小あるト
 糸 糸体と風湿よひて 素素よ
 暑氣小火たかふとせ戸隙子



戸より風の出入程よく加減を
 一或る家内雨く火を焼
 豆萩秘術を流し音なる
 小法玉の蚕と或る方もかく
 不絶せし麻糸は沢山下垂して
 糸の細く音垂るは人の為ふ
 勢の取上能くしてそのまに
 利便とゆへともは平生
 書き蚕此道ふを要しふ
 よりか家功名の出来しなり
 但し平生の炭火熱しとより

東流
 籠烟の
 園



蚕盛の時分霖雨と流るる例の半

或年蚕起の時分より産の記中七日毎ふ大雨降流り死せる冷風をげし
 法園蚕たれたる半あり其時或里小書蚕功者の人ありて家内三所程
 火を焼と蚕の糸前能行小湯字成也し千變万化して書ひはあふぬ
 渾小痛き其材を毒の上俵せり故ふば子版を争う人皆感とらるるとや

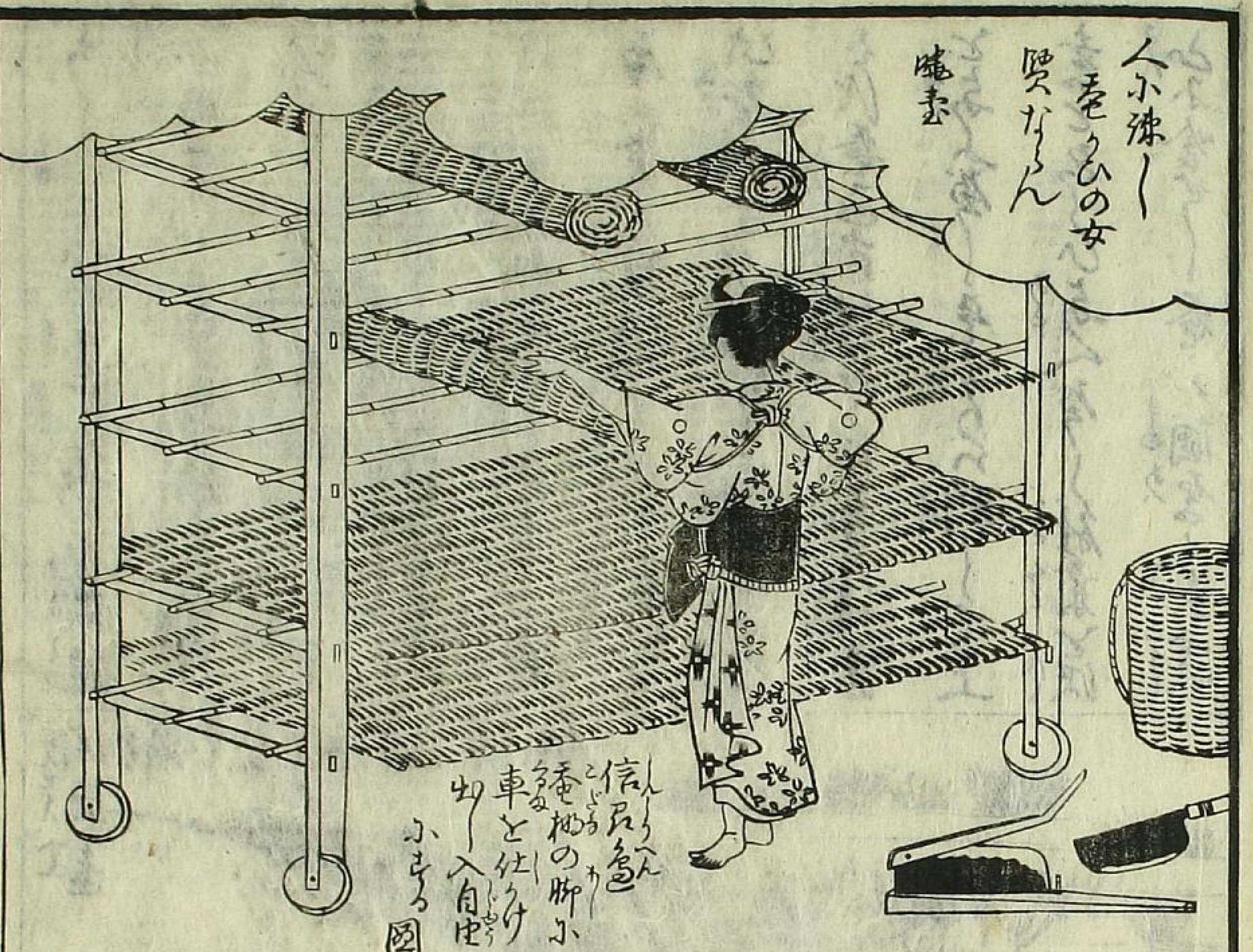
日暑氣成防ぎし例の半

あると一蚕産前より時外暑氣流る南風少くわめさし一六園く蚕たふ
 痛く半あり或雨の老人のつらさかこれ人からがは暑と格別なうれと
 小もあるゆへに心案とめぐりし大戸は小扇箕をせし外より内へ風と
 入るしつばい人の蚕とあしと暑ふつるなす上作せしやまなり
 又或年産起りより日暑氣とあつて一人も身を持ぬる程のことありし

夫彼産其子て男と
 凌一樹と名をひきく
 大國府七八が格を
 りつて毎日家内番柳の
 間とあざざり一ふ
 蚕おも痛まば上作
 ちさうけ人志うたも
 迎いと人をとあけ仕
 方と教ふ系何れと上飛
 せーとあうかやれお
 平生の居へとせし
 平生心け居へとせし



桑の露
 おとけ
 園

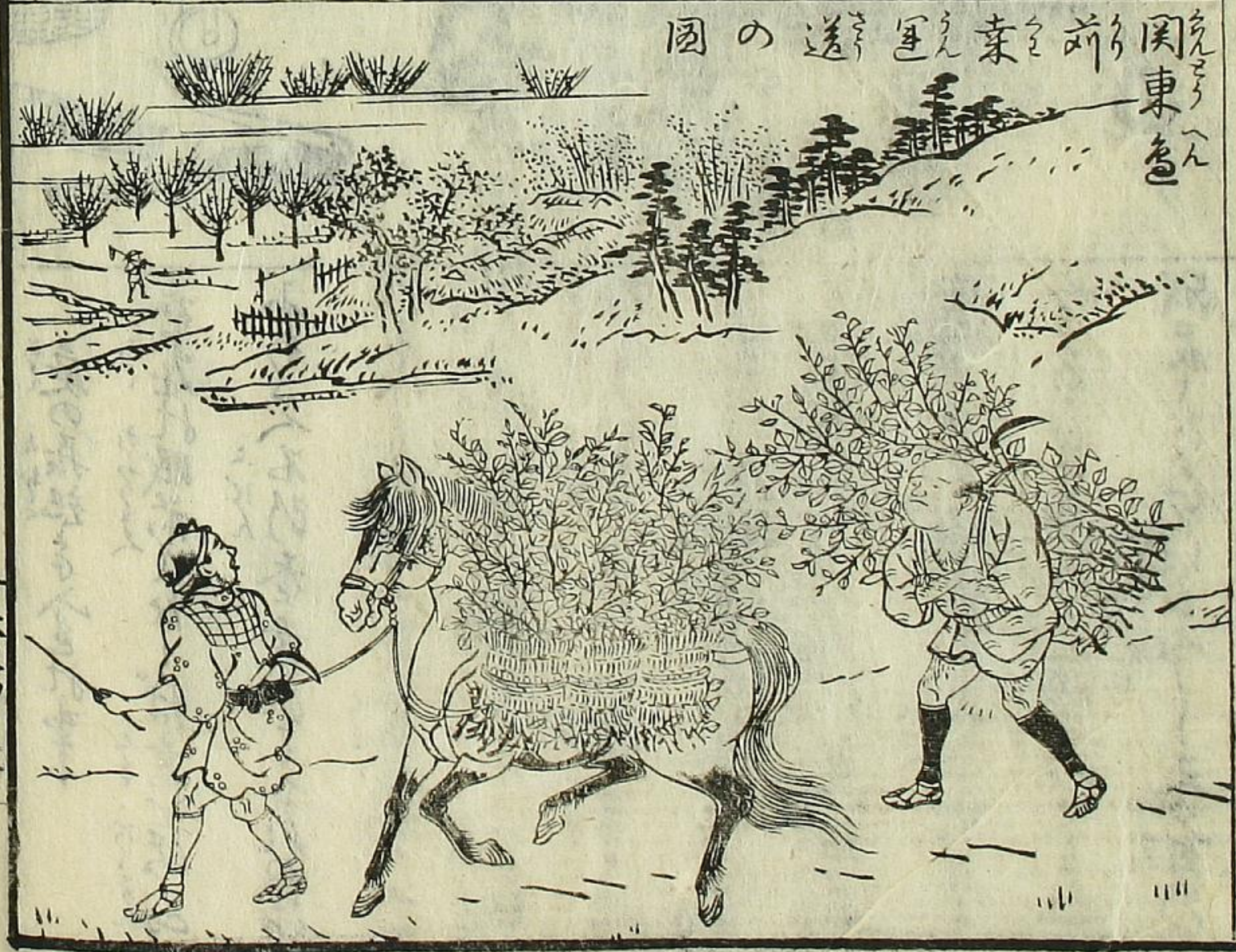


人小殊一
 老くの女の
 賢なりん
 嘘云

信石
 桑柳の脚小
 車と仕
 物入自
 小まる
 園

庭の居起子入金れ事
 蚕産れ眠前よなば桑と波山
 小あふ石の蚕桑にまらぬ指
 にはま一は時うりの桑は食ふ
 陸ひ厚く何又食ふ一初
 掃立の時かたはらぐひ湯きもは
 のおべ一格別異さやそわは
 此戸と窓あが一風と入程能
 加減まぐ一係蚕の居る新を
 々々なる程ふ一雪はのこひ
 成んくひ引まぐ一又夕日乃

小あさり〜蚕をすれたら小病ひ
 びふとそりば良桑〜喰を
 退付黄桑とあり又休桑と見え
 ば随分なぬちかき中〜教
 へん桑と喰は〜子眠記
 け産斗なり細か〜掛ふと及
 ば産桑と産記よ〜だ意だ休桑
 とよ〜産〜是〜り別〜て上
 桑とあ〜ひ〜人〜だ〜社桑と沢
 小喰〜蚕と蘭原〜桑と味



多〜は付別〜て産〜く〜桑原あ〜之後程厚〜く〜つ掛〜
 可〜に〜い〜や〜と〜
 産体〜を〜ぬ〜く〜と〜よ〜け〜て〜薄〜く〜せ〜よ〜桑原〜も〜さ〜は〜異〜氣〜小〜掛〜ら〜き
 又交小秘半あり〜む〜く〜大異〜なる〜蚕平生桑の青桑に〜あ〜は〜び〜の〜あ〜と
 桑比よ〜と〜体〜を〜居〜る〜程〜不〜成〜皮〜を〜振〜ゆ〜く〜喰〜を〜〜
 初〜の〜ど〜く〜人〜間〜を〜身〜と〜持
 へ〜る〜程〜不〜成〜め〜れ〜は〜〜
 け〜の〜外〜蚕〜も〜不〜成〜ま〜も〜と〜や〜く〜作〜ら〜り
 け〜時〜桑〜不〜成〜ま〜れ〜を〜繭〜も〜小〜く〜皮〜薄〜く〜桑〜心〜味〜す〜か〜〜
 産の記
 け〜り〜蚕〜想〜を〜ま〜も〜洗〜ら〜す〜ま〜で〜小〜丸〜桑〜と〜式〜十〜後〜より〜正〜三〜日〜後〜喰〜ふ〜と〜い〜桑
 忘〜く〜
 産の加減桑の厚薄あ〜てお〜の〜
 産の産
 法〜を〜し〜く〜繭〜紙〜作〜ら〜は〜不〜あ〜は〜幸
 蚕桑から〜産〜れ〜水〜晶〜の〜ど〜く〜
 産の産
 所〜と〜だ〜つ〜の〜
 東國〜の〜
 中國〜の〜



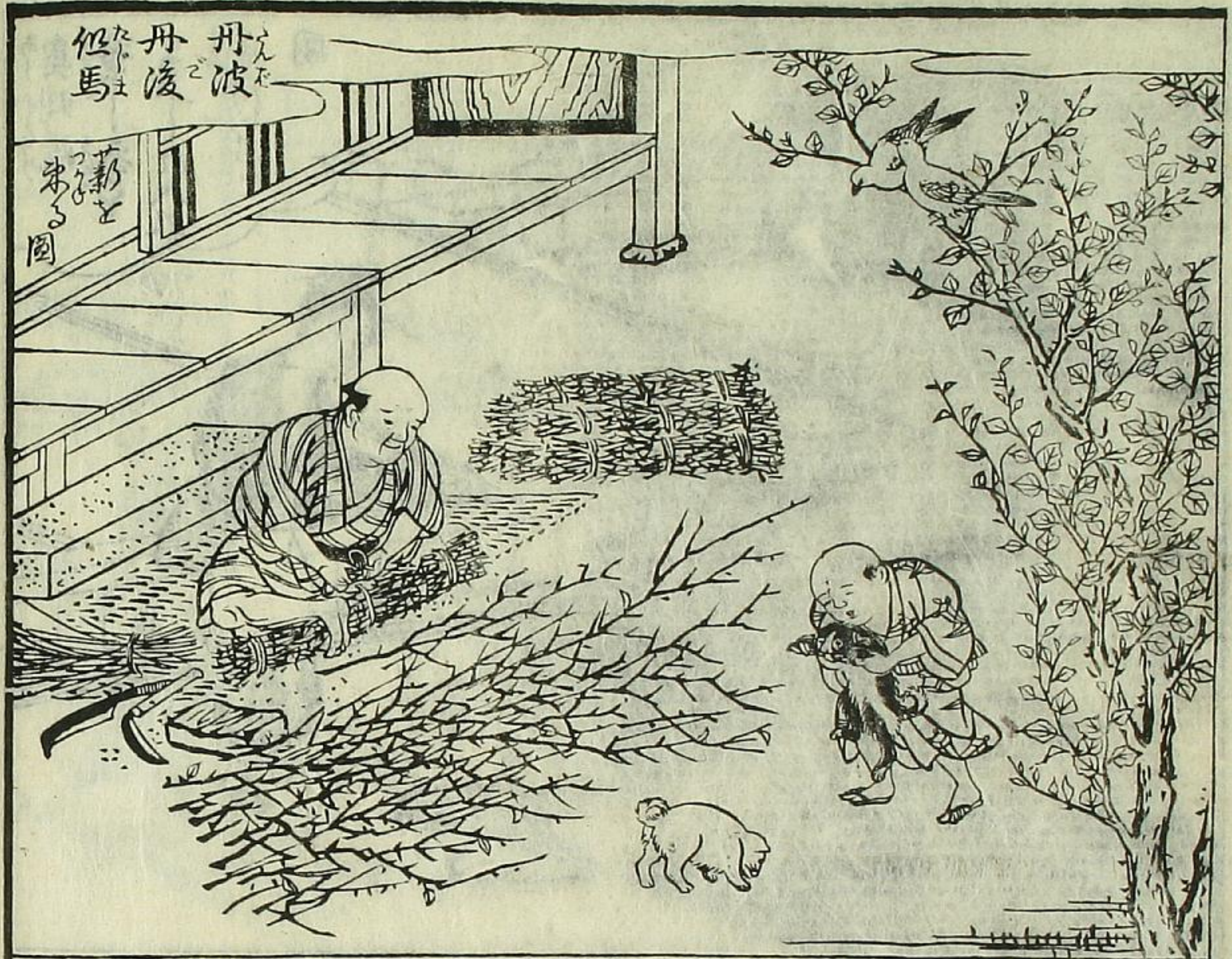
奥州流
製蚕と
まぶし入れ
満洗くそ
図



奥州流
製蚕と
まぶし入れ
満洗くそ
図

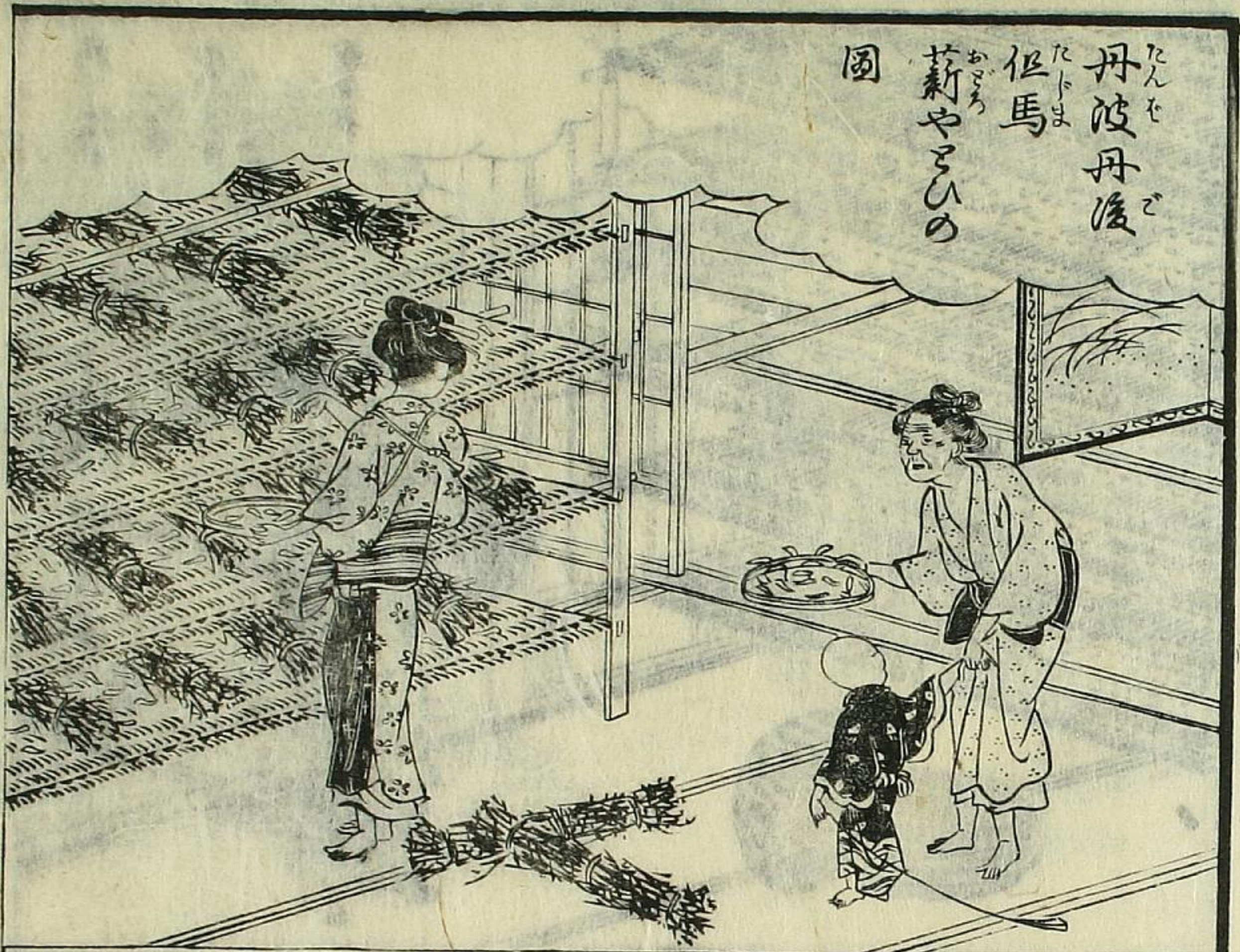
枝を園のてくたむの是状
 棚に間小すべとまぶしは間小
 蚕を入おのまぶしのけり糸
 ても作らば又新よ蚕をま
 たるをかへそりあゝ暖かる
 所へよするべとまぶしをつれ
 たりまゝより三日めお身り糸
 とそ新を引分風と入繭の
 湿りと乾きあり
 又江戸と園はてく二階裏
 ろり繩を二筋でけりは繩小

何り先荒増を法園小くは
 奥州流と遠の縁を式す程お
 立く中小力竹を角遠ひ小
 結ひ付葉三日が宛のて園
 此てく三角お折をとむり
 の中小立かゝべは中小まぶし
 蚕をまぶしくと配り入まぶし
 火も焼と暖まる所へよとまぶし
 繭を洗くは是とまぶしとま
 又間休ともり
 丹波丹後他もまぶしとまぶしの
 春風中九一



丹波丹波
但馬
馬
薪
園

物より竹の管は通し蚕
 の柵を園乃ごとくけり下を
 素喰をとり竹の蔭を柵本
 とし上を下ケ自由にする
 又柵を〜時ハ柵小美と
 園此〜草苞小蚕成入
 是と柵の局へ立ち〜蔭を
 けり下を〜
 又園東を〜幅三尺余長サ
 する程の竹此目柵乃中
 蔭を〜を〜蚕成飼ふ

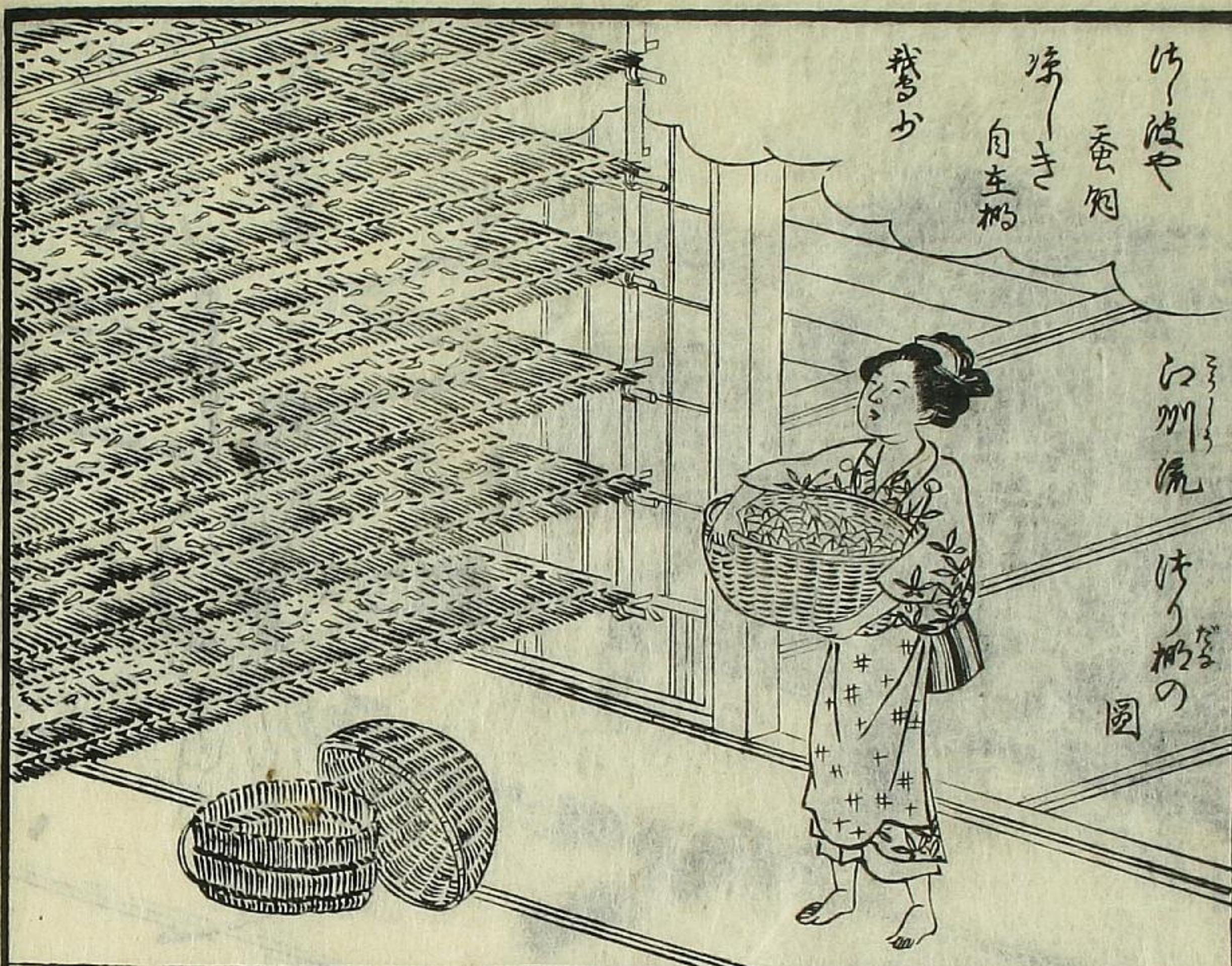


丹波丹波
但馬
薪
園

又柵〜時ハ柵小繩など張
 の枝を入是小蚕成入す由と作
 ら其外信州小園筋を〜
 流後ありて法道を柵〜若別
 あり其園〜小滝〜写〜こと用
 柵〜又さ〜蚕と素と喰
 ざる物取痛あり〜子に
 あつ〜蔭化所入〜又
 を終を柵〜蚕成〜
 あり〜系は〜なるは〜
 入〜柵〜



江別流
菜苞小
蚕豆入
豆白
豆
豆
豆



江別流
蚕豆
豆白
豆
豆
豆

江別流
豆白
豆
豆
豆
豆

言名此本のかりとつふよの人乃
 言れ本にのけりてなぐておん
 とすとん今終ふなり一付
 終ふとて運まぬくやういふ
 何之のへつてけりもそら
 折ふより居る程を何ともいふ
 て終ふなりてめりつふをいふ
 何事とつふ小波言名のりふ
 されをさるれや居るん程い
 める先と足りけり已も漲
 小波一也之を我つふとめかし

七八日毎日南ふ干は事仲乃
 頻にアおむる程まきと一又
 毎天なり早く炭火とわう
 焙燥ふ入中此類といふおむる
 折ふと一初蚕豆此掃ふ
 より千奉一万若くそ御蔭の
 頃ふより程と手入の藤忽お
 来るも今と此勅忽水の泡と
 消へ美右の扱失成へ一終く
 何れもさるりけりてつとけり

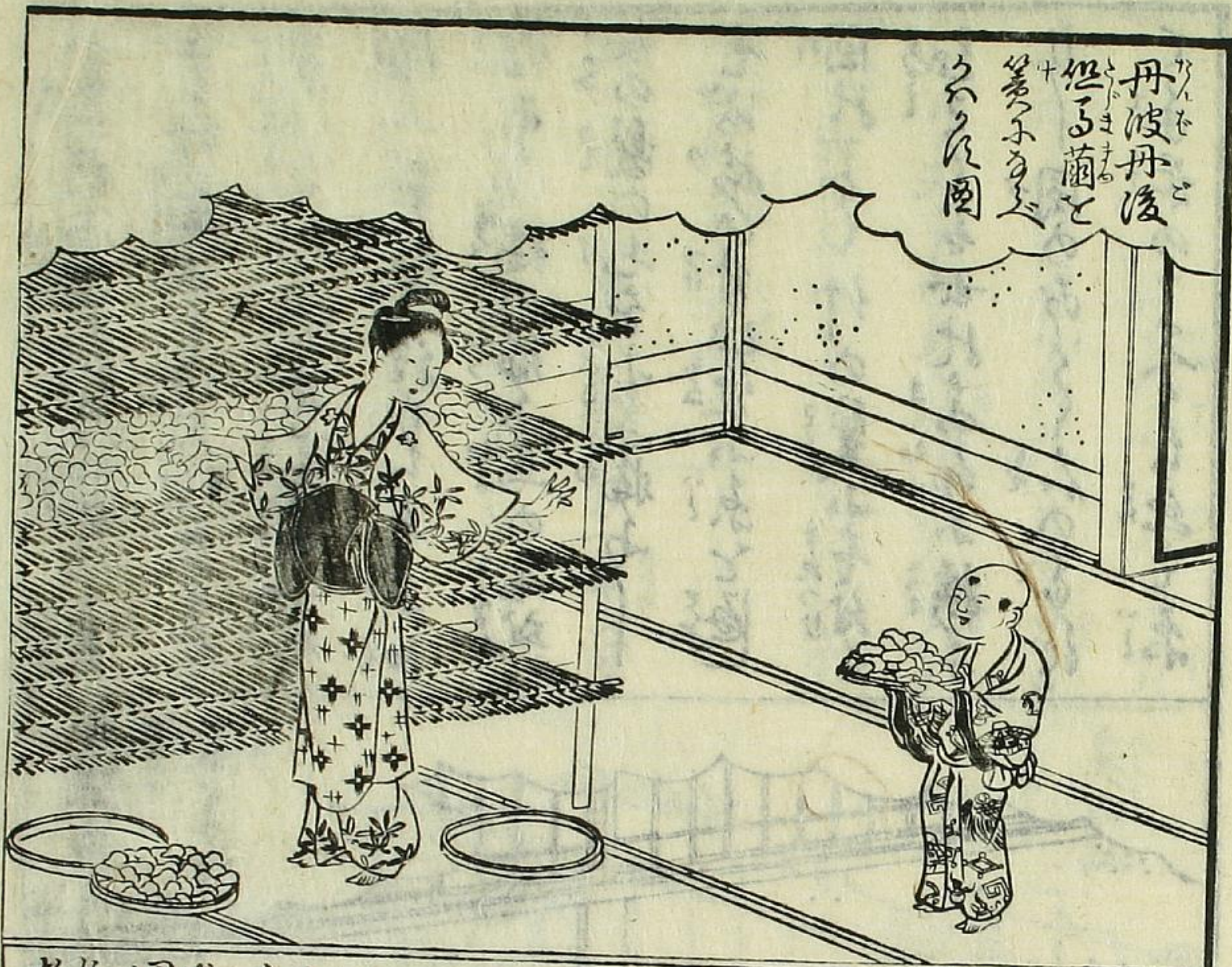
奥列流
まづ此蘭と
まづ此蘭と



終ふたりて心ゆくや一肘ふき
まづ此蘭と
は半兼好が筆まじきみふ載る
人の能あぬるの打ぬと程の迎
ゆまへと志をも後返小つて
そ味深き終をま小書市竹之
大方此半の沖のりより過ら
出あつたりる蚕業も初めは程の
吾友大切小書育り一紅子社
得たりと世沖のりよりあいの外
道有るは程を能く性なり

美良中九四

丹波丹後
終ふ蘭と
まづ此蘭と
まづ此蘭と



練取板は徳の幸
蚕取小蘭とま六日月より
と糸取取らるる是も國々
少く流義多し一先中國を
守は方位の本此養小國乃
しそを付るあり又是とま
七寸は方の練車小うは
久く干立ゆなり
奥列色は練取女のた此方へ
國のすく電状ぬり縹のゆ
養まはる時伊のま非とに

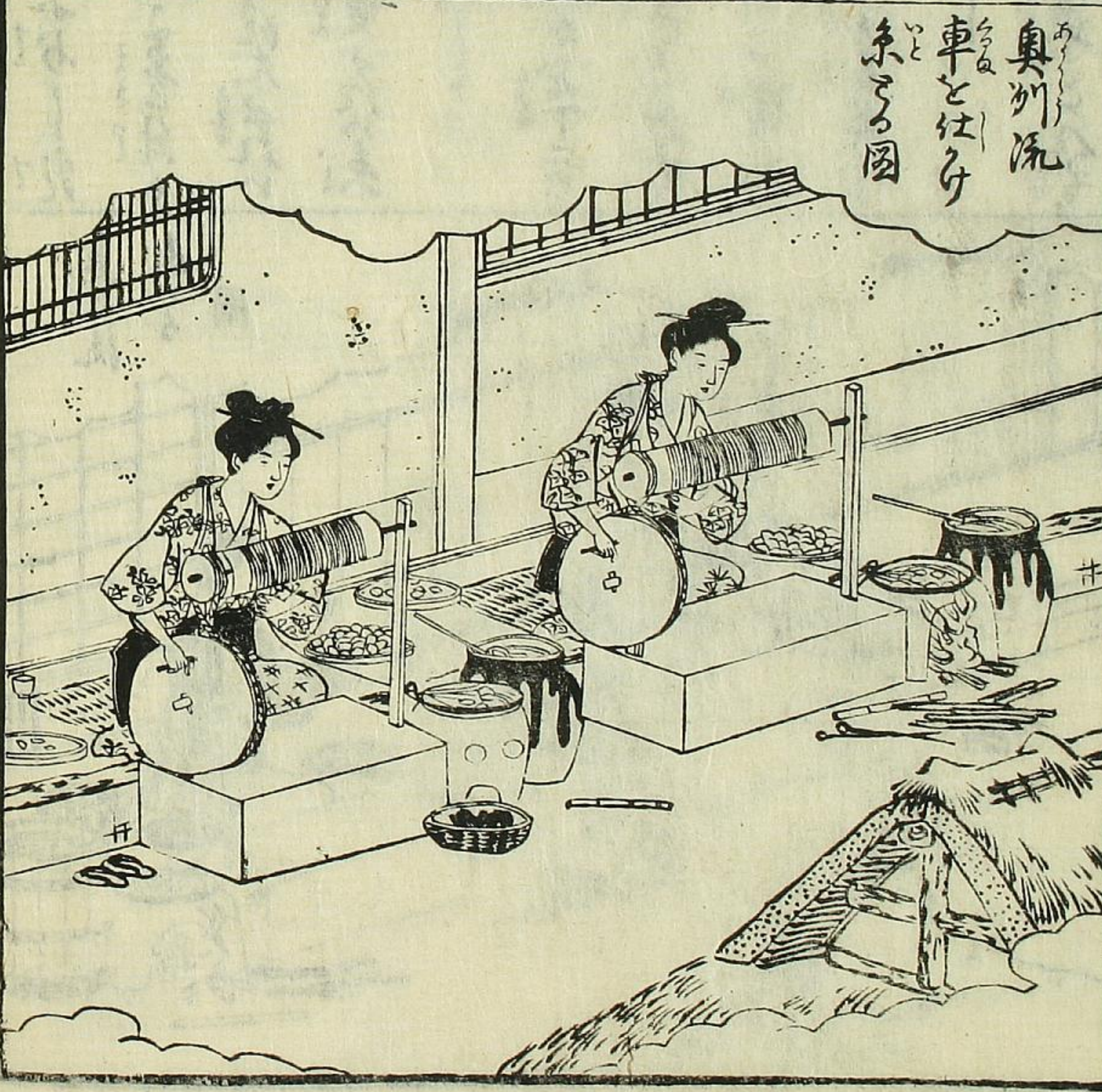
むね程小端人色加減よく惹
 くる付着試みのくくくまぜ
 糸いをまをくくく糸半分斗
 備小並能さ程りち是小小
 傳あり襦の細小馬の尾或の
 女の髪の色を小を端あり
 是は姑ひ付は完小糸と返
 園はくく竹の簀小を付る
 志ましく女は志向小橋小
 たり園のおくく衣の多に
 て手前のくくく糸を糸



は細くなほ度毎小がく完
 取添くむくならね極小を付る
 たり又まをを修り糸をこれい
 糸くらよりく又変なれ糸
 口巾は是小加減あり
 又一言小養此衣の方(車)ニッ
 仕りけ是小法糸をくけ
 早くゆき付る法あり園小
 あくく糸取法流義あり
 写し糸をりらあり
 又糸衣あり紅線車これも



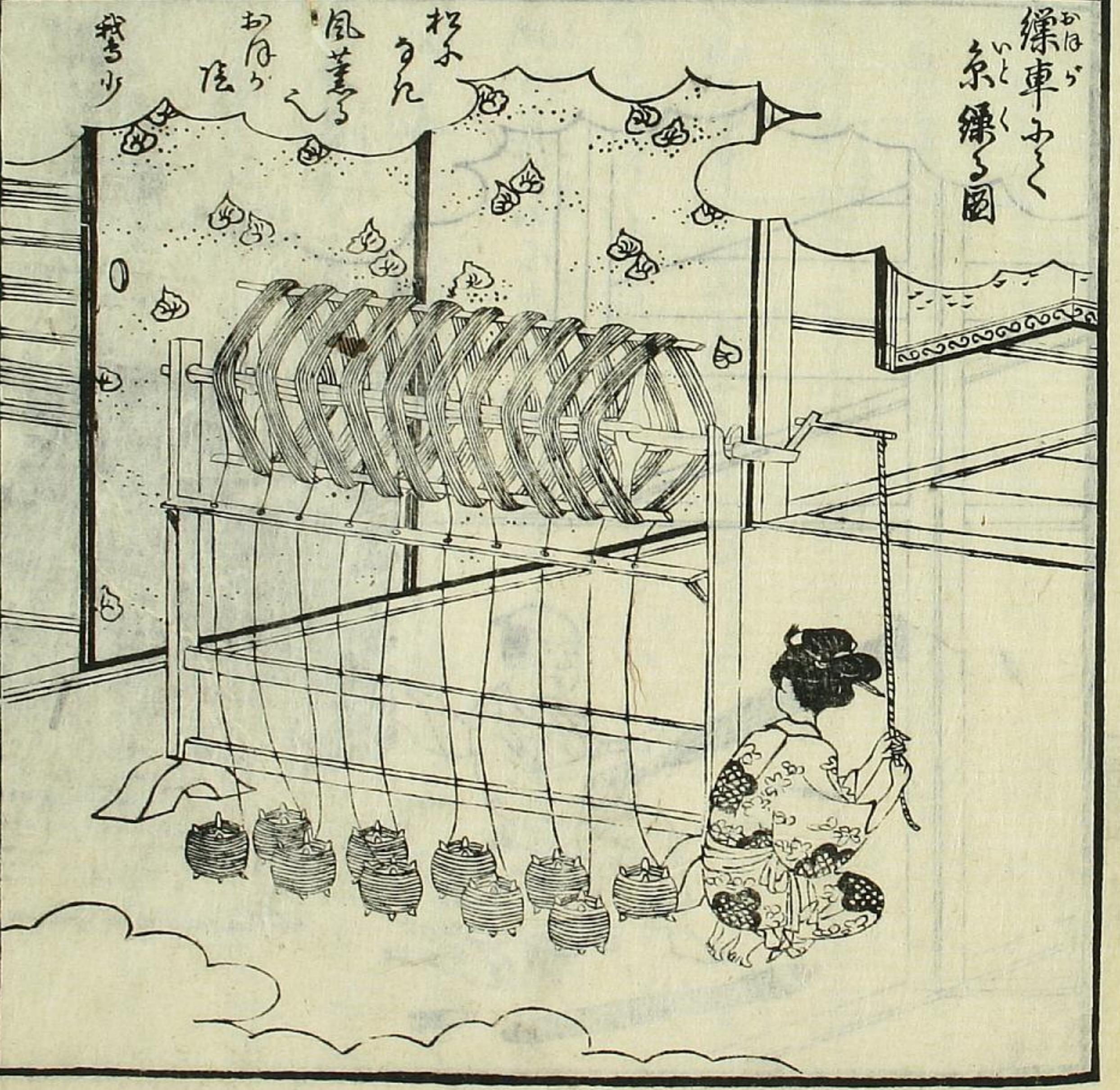
園所ふりて是く
 仕法ありと之ども
 まげ一方と園不
 りん又つて成を
 尚仕振物又園の
 多りあはば其所
 小まごのみ穿し
 成りちめなり一
 今一方とあげて
 小あつたは作を
 以是は云ふ異を



奥州流
 車と仕ひ
 糸をる園

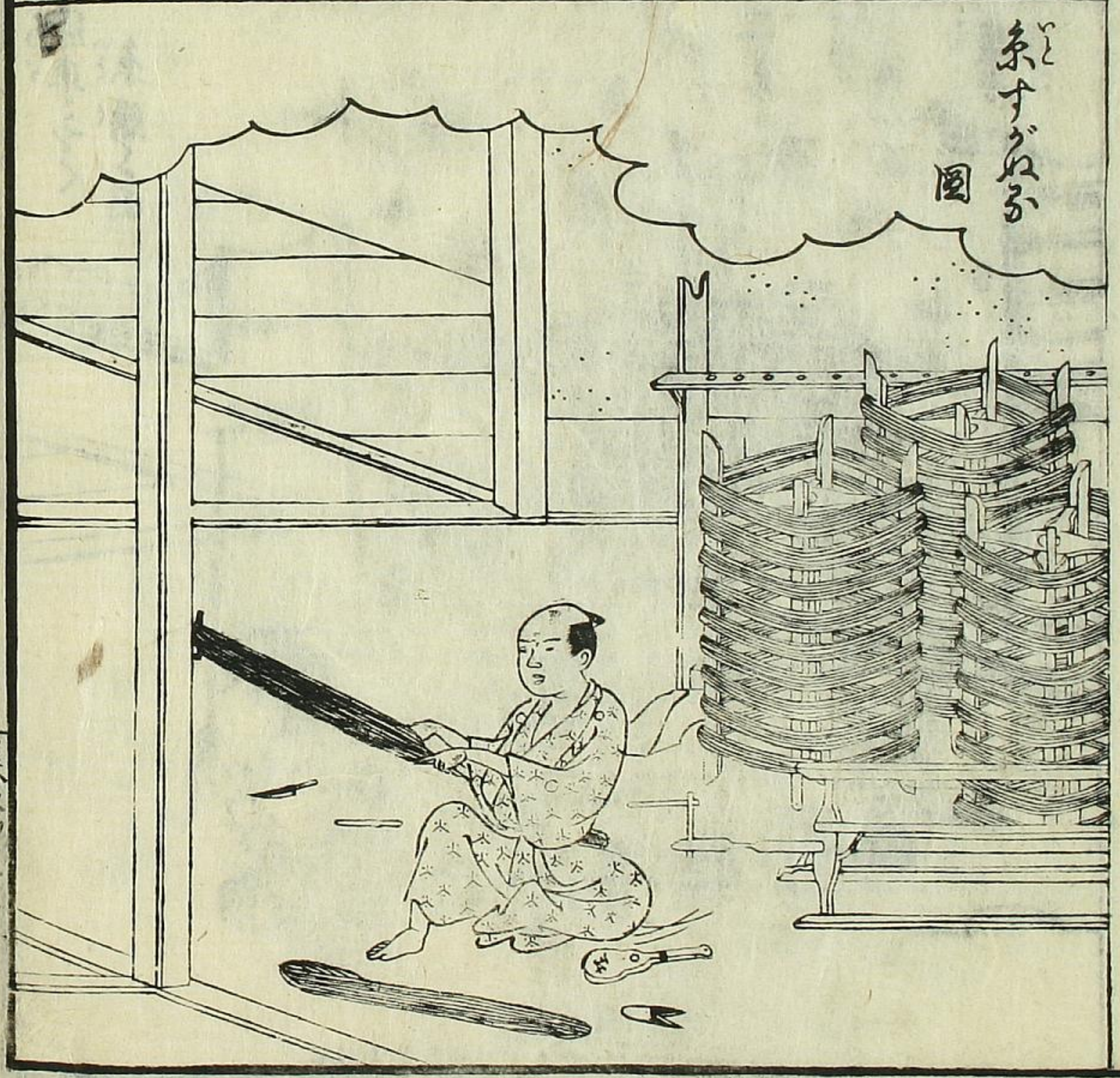
美濃中九六

蚕此若魚并病
 見振の事
 蚕掃まうり七八月
 小獅子れうり素よ
 とよと初る
 月六日め位小獅子此
 素素よ成と中と
 月二日め位小獅子の素
 葉小なるとやと
 獅子体の中小白
 あつたあつた蚕育



繰車みく
 糸繰る園

座の居記小あしく
 成りし是と冷しる
 蚕又と暖しる蚕糸
 あえし
 柳子此居尻る終小
 死しる蚕あしは是と
 陰子此透るしる温
 風小あしり又と毒小
 苗しる蚕と志思し
 喜此居記此乃眠記
 小頭ゆき蚕多出来



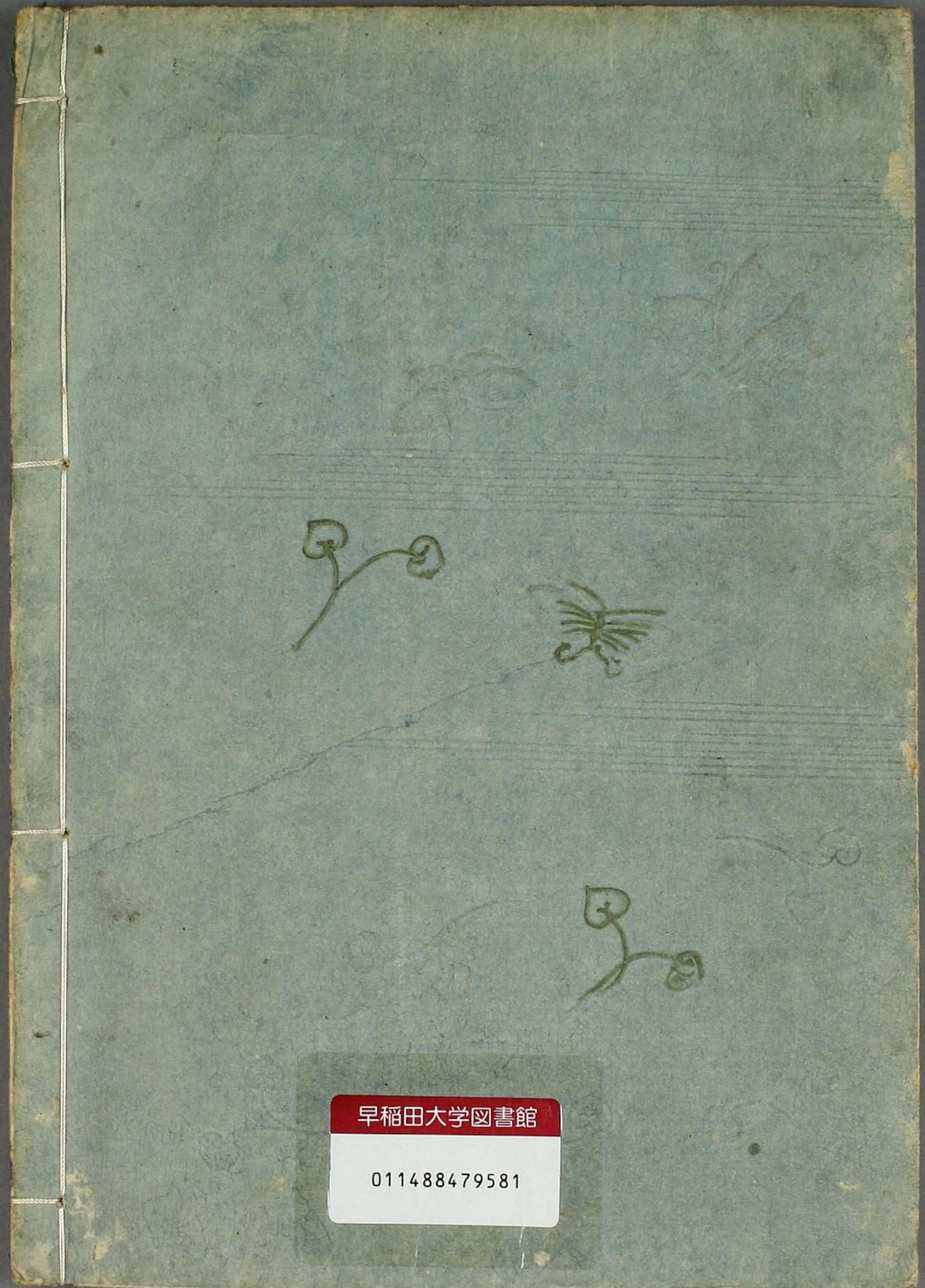
糸すなぬ家

三月廿一日

素冷切悪くと厚網を又と程りと悪きとあぶし又船の時分りて
 たる蚕多りあしは暑き小苗しと知えし又居るしはしる蚕あり
 是も所よりてあしは暑きあしは暑きあしは暑きあしは暑きあしは暑き
 あしりし蚕小多りあしは暑き又居尻小かびあしりる蚕小多りありと知る
 だし又蚕窓の尻り小多りあしは暑きあしは暑きあしは暑きあしは暑き
 病氣の下地ある小風雨暑温小苗し蚕なりと云又と蚕此孔性と云
 又雷雨去りし小ゆりあしは暑きあしは暑きあしは暑きあしは暑き
 是よりあしは暑き又居尻小蚕此頭織小糸色小なり素冷し半進る
 と幼網の時小暖しし蚕又の焼火の火き小苗しと知えし又蚕記り
 上る時夜とぬき得るる蚕あり是と素此振麻束を記成る本の形小
 てとゆりし何りて蚕の脊小苗し病しと知えし又蚕記り

何ふと呼吸能く年々攝ひおたふに不呼吸をとりて呼吸し多し
 是の生壁の濕不當しやと云ふ一濕除ふか火と燒を置しけ外
 養此病ひ多しやといふも皆知相より子入ありと云ふ又と種元の病と云
 上候べしお不種元を吟味し陸分能く種元求め何方子候の事と
 知ふ事と云ふ中一候の患と云ふ事ありと知れり

養蚕秘録中巻終



早稲田大学図書館

011488479581